

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-5

< 第5週 >

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.6-9

< インフルエンザ >

第5週の定点当たり報告数は35.82となり、前週よりも減少した



病原体情報
P.10-12

インフルエンザウイルス 2012/13シーズン



速報

< 今週は該当記事はありません >



海外感染症情報
P.13-20

インフルエンザ / カンボジアで鳥インフルエンザの患者が発生しました / エジプトで、環境中の検体からポリオウイルスが検出されました / 新種のコロナウイルス感染症について / ニジェールでポリオ患者が発生しました



感染症の話
P.21-24

< AIDS(後天性免疫不全症候群) 後編 >
病原診断と治療について



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(5週)
P.25-30



5週のデータ
P.31-44



発生動向総覧

< 第5週コメント > 2月6日集計分

全数報告の感染症

注意: これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては一部を除いて発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症

報告なし

2類感染症

結核322例

3類感染症

細菌性赤痢3例

菌種: *S. flexneri*(B群)1例__感染地域: インドネシア

S. sonnei(D群)2例__感染地域: ベトナム1例、インド1例

腸管出血性大腸菌感染症12例(有症者10例、うちHUS 1例)

感染地域: 国内11例、インドネシア1例

国内の感染地域: 鹿児島県5例*、茨城県1例、新潟県1例、愛知県1例、大阪府1例、兵庫県1例、和歌山県1例

* 保育施設における集団感染(O157 VT1・VT2)

年齢群: 1歳(1例)、2歳(2例)、5歳(1例)、6歳(1例)、10代(1例)、30代(2例)、40代(1例)、50代(2例)、80代(1例)

血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(6例)、O157 VT2(2例)、O26 VT2(1例)、その他・不明(3例)

累積報告数: 49例(有症者31例、うちHUS 4例、死亡なし)

腸チフス1例

感染地域: インド

パラチフス1例

感染地域: インドネシア

4類感染症

E型肝炎1例

感染地域: 国内(都道府県不明)__感染源: 不明

つつが虫病7例

感染地域: 和歌山県4例、鹿児島県3例

マラリア1例

熱帯熱__感染地域: ガーナ

レジオネラ症13例(肺炎型13例)

感染地域: 宮城県4例(うち1例温泉)、千葉県3例、山形県1例、愛知県1例、兵庫県1例、和歌山県1例、大分県1例、韓国1例

年齢群: 50代(2例)、60代(3例)、70代(4例)、80代(4例)

5類感染症

アメーバ赤痢11例(腸管アメーバ症9例、腸管外アメーバ症2例)

感染地域: 神奈川県3例、群馬県1例、兵庫県1例、福岡県1例、国内(都道府県不明)3例、インドネシア1例、中国/台湾1例

感染経路: 経口感染5例、性的接触3例(異性間2例、同性間1例)、不明3例

急性脳炎7例 インフルエンザウイルスA型3例__年齢群: 2歳(1例)、5歳(1例)、10代(1例)
 インフルエンザウイルスB型1例__年齢群: 7歳
 単純ヘルペスウイルス2例__年齢群: 50代(1例)、60代(1例)
 ロタウイルス1例__年齢群: 3歳

クロイツフェルト・ヤコブ病3例
 孤発性プリオン病古典型3例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例
 年齢群: 60代(死亡)

後天性免疫不全症候群21例(AIDS 4例、無症候14例、その他3例)
 感染地域: 国内16例、タイ1例、フィリピン1例、メキシコ1例、国内(都道府県不明)1例、米国1例、国内・国外不明1例
 感染経路: 性的接触18例(異性間7例、同性間11例)、性的接触(同性間)静注薬物使用1例、不明2例

ジアルジア症1例 感染地域: タンザニア
 梅毒9例(早期顕症I期3例、早期顕症II期3例、無症候3例)

破傷風1例 年齢群: 30代

風しん59例(検査診断例44例、臨床診断例15例)
 感染地域: 東京都18例、神奈川県9例、大阪府4例、埼玉県3例、千葉県3例、兵庫県2例、栃木県1例、山梨県1例、長野県1例、愛知県1例、国内(都道府県不明)16例
 年齢群: 15～19歳(5例)、20～24歳(9例)、25～29歳(10例)、30～34歳(15例)、35～39歳(11例)、40代(6例)、50代(2例)、60代(1例)
 累積報告数: 339例(検査診断例270例、臨床診断例69例)

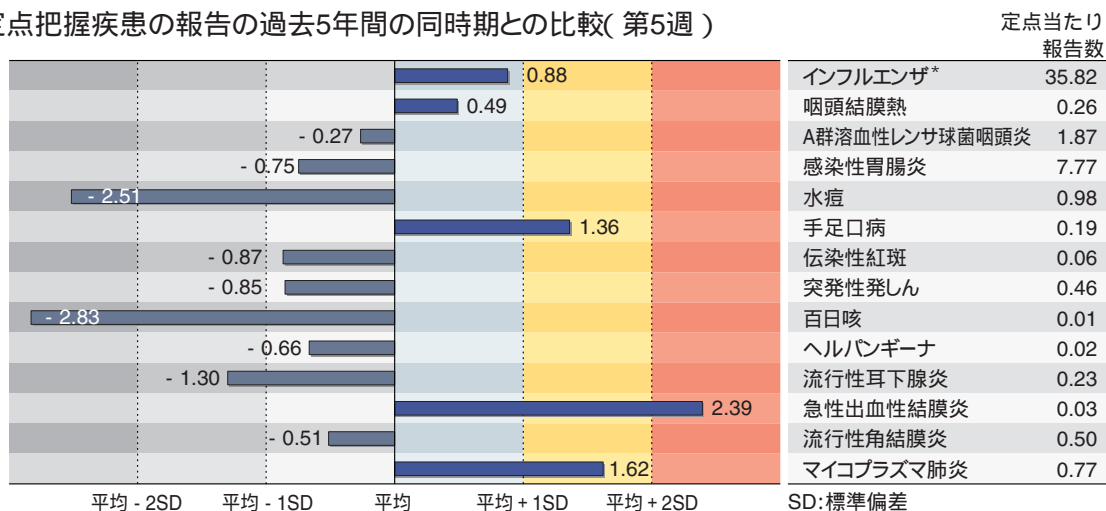
麻しん7例〔麻しん(臨床診断例6例)、修飾麻しん(検査診断例1例)〕
 感染地域: 千葉県2例、福島県1例、国内(都道府県不明)3例、国内・国外不明1例
 年齢群: 25～29歳(2例)、30～34歳(2例)、35～39歳(2例)、50代(1例)
 累積報告数: 23例〔麻しん(検査診断例5例、臨床診断例13例)、修飾麻しん(検査診断例5例)〕

(補)他に急性脳炎1例の報告があったが削除予定。また、2013年第4週までに診断されたものの報告遅れとして、細菌性赤痢1例〔菌種: *S. flexneri*(B群)__感染地域: ネパール〕、エキノコックス症2例〔多包条虫2例__感染地域: 北海道1例、国内(都道府県不明)1例〕、 Dengue熱3例〔うち1例 Dengue 出血熱__感染地域: カンボジア1例、タイ1例、ブラジル1例〕、類鼻疽1例〔感染地域: ベトナム〕、アメーバ赤痢1例〔腸管外アメーバ症、感染地域: 国内・国外不明、感染経路: 不明、死亡〕、ウイルス性肝炎1例〔 B型肝炎、感染経路: 性的接触(異性間・同性間不明)、死亡〕、急性脳炎8例〔インフルエンザウイルスA型4例__年齢群: 9歳(1例)、60代(1例)、70代(2例、うち1例死亡)、病原体不明4例__年齢群: 1歳(1例)、3歳(1例)、20代(1例)、50代(1例)〕、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例〔遺伝子型: *VanB*__菌検出検体: 尿〕などの報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第5週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。(* 2009年のパンデミックの影響を受けています。)

インフルエンザ

定点当たり報告数は減少した。都道府県別では新潟県(51.61)、愛知県(48.27)、愛媛県(45.26)、長崎県(43.33)、鹿児島県(43.28)、千葉県(42.53)が多い。

小児科定点報告疾患

RSウイルス感染症の報告数は1,650例と減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約77%を占めている。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では宮崎県(1.28)、熊本県(0.90)、山形県(0.83)が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では石川県(6.03)、鳥取県(5.42)、富山県(5.03)が多い。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では熊本県(16.52)、宮崎県(16.28)、大分県(13.61)が多い。

水痘の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では宮崎県(3.25)、沖縄県(3.00)、福岡県(2.13)が多い。

手足口病の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別では熊本県(1.14)、福岡県(1.02)、大分県(1.00)が多い。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では岩手県(0.38)、富山県(0.24)、宮城県(0.19)が多い。

百日咳の定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では静岡県(0.08)、福井県(0.05)、佐賀県(0.05)が多い。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別では長崎県(0.14)、新潟県(0.13)、富山県(0.07)が多い。

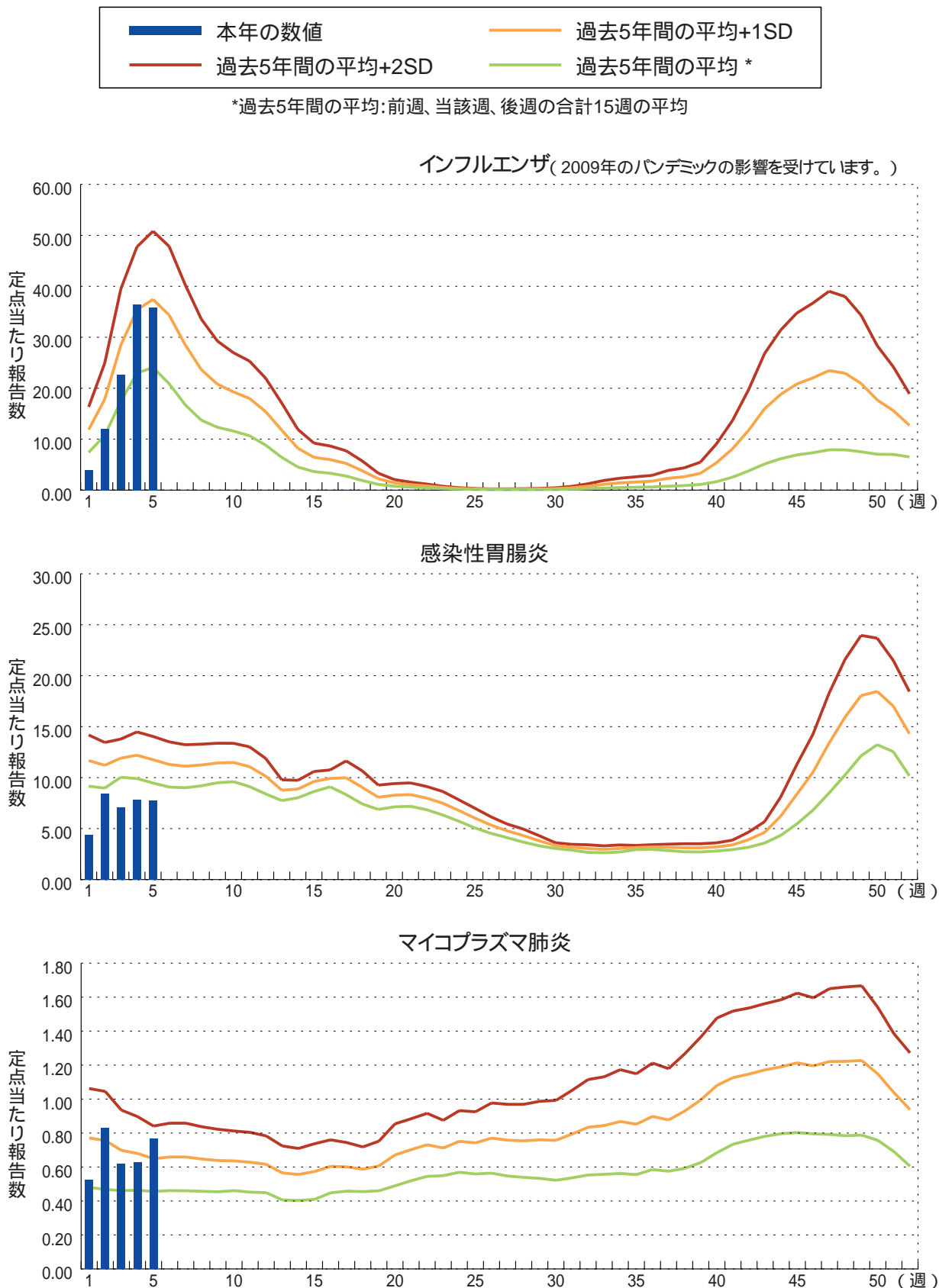
流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では福井県(1.00)、岩手県(0.85)、秋田県(0.74)が多い。

基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では宮城県(2.75)、福島県(2.71)、青森県(2.33)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2013年第5週)

青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





注目すべき感染症

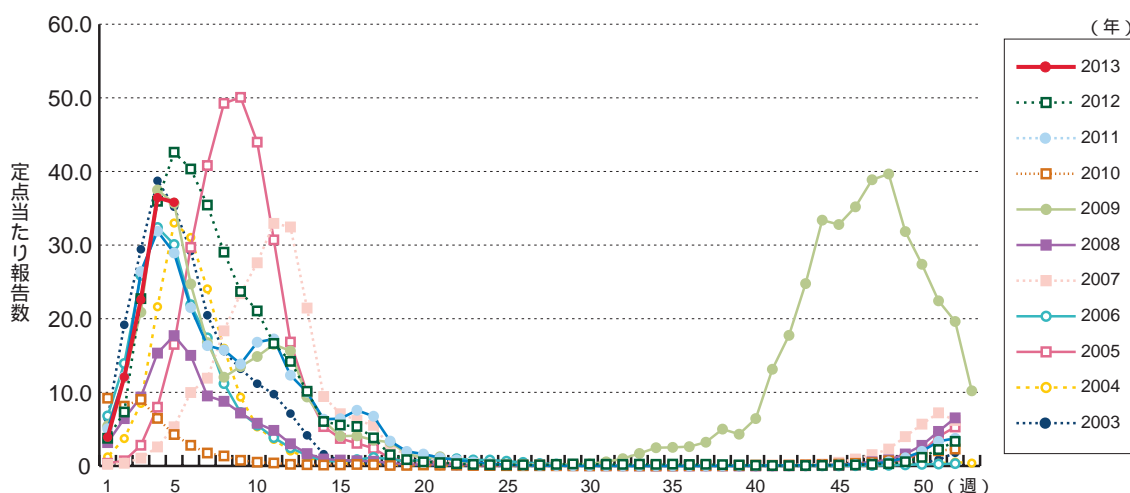
インフルエンザ

インフルエンザ(Influenza)は、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられている。典型的な発症例では1～4日間の潜伏期間を経て、突然に発熱(38 以上の高熱) 頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続く。通常は1週間前後の経過で軽快するが、いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴である。主な感染経路はくしゃみ、咳、会話等で口から発する飛沫による飛沫感染であり、他に接触感染もあるといわれている(CDCホームページ: <http://www.cdc.gov/flu/professionals/infectioncontrol/healthcaresettings.htm>)。

インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生が重要である。インフルエンザでは、たとえ感染者であっても、全く症状のない不顕性感染例や、感冒様症状のみでインフルエンザウイルスに感染していることを本人も周囲も気が付かない軽症例も少なくないため、特にヒト-ヒト間の距離が短く、濃厚な接触機会の多い学校、幼稚園、保育園等の小児の集団生活施設においては可能である場合は職員も含めて全員が咳エチケット、手指衛生を実行するべきである(厚生労働省インフルエンザQ&A: <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>)。

感染症発生動向調査では、全国約5,000カ所(小児科定点約3,000、内科定点約2,000)のインフルエンザ定点からの報告に基づいてインフルエンザの発生動向を分析している。インフルエンザの定点当たり報告数は2012年第43週以降14週連続して増加していたが、2013年第5週の定点当たり報告数は35.82(報告数177,271)となり、前週(定点当たり報告数36.44)よりも減少した(図1)。都道府県別では新潟県(51.61)、愛知県(48.27)、愛媛県(45.26)、長崎県(43.33)、鹿児島県(43.28)、千葉県(42.53)、埼玉県(41.56)、沖縄県(41.28)、長野県(40.80)、宮崎県

図1. インフルエンザの年別・週別発生状況(2003～2013年第5週)



(40.66) 福岡県(40.54)の順となっている。定点当たり報告数の全国値は減少したが、30道府県で前週の報告数より増加がみられた(図2)。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約208万人(95%信頼区間:193万人～223万人)とこちらも前週の推計受診者数(約214万人)よりやや減少したが、2週連続して約200万人を上回った。2012年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約726万人(95%信頼区間:702万人～750万人)であり、年齢群別では5～9歳約103万人、30代約96万人、10～14歳約84万人、40代約83万人、0～4歳、20代共に約79万人の順であった。また70歳以上は約44万人と、昨シーズンの同時期の累積の推計受診者数(約27万人)以上全て暫定値を大きく上回っている(図3)。

図2. インフルエンザの都道府県別定点当たり報告数の推移(2013年第3～5週)

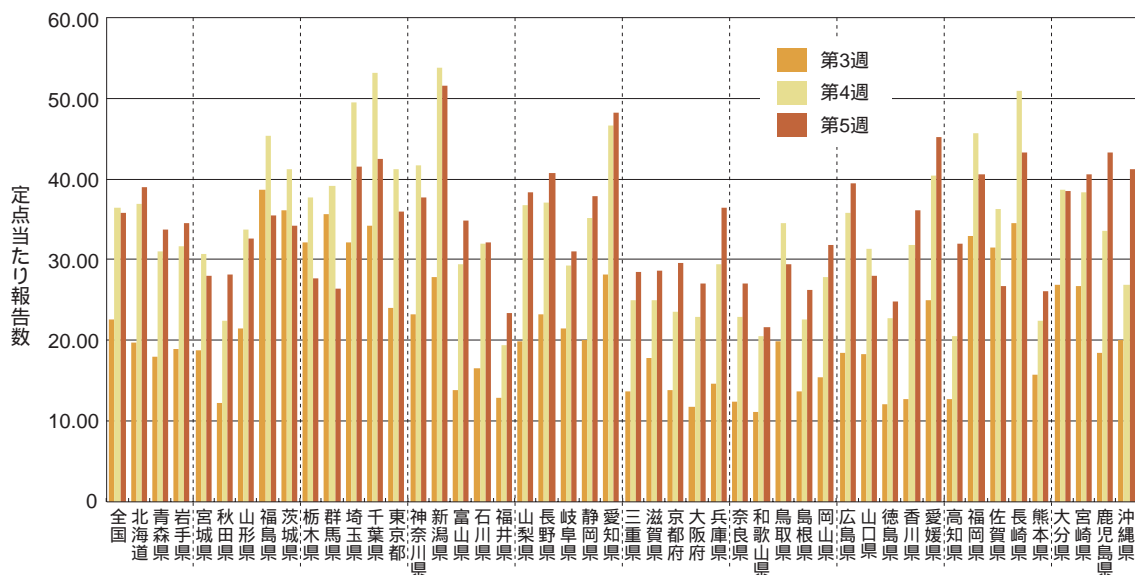
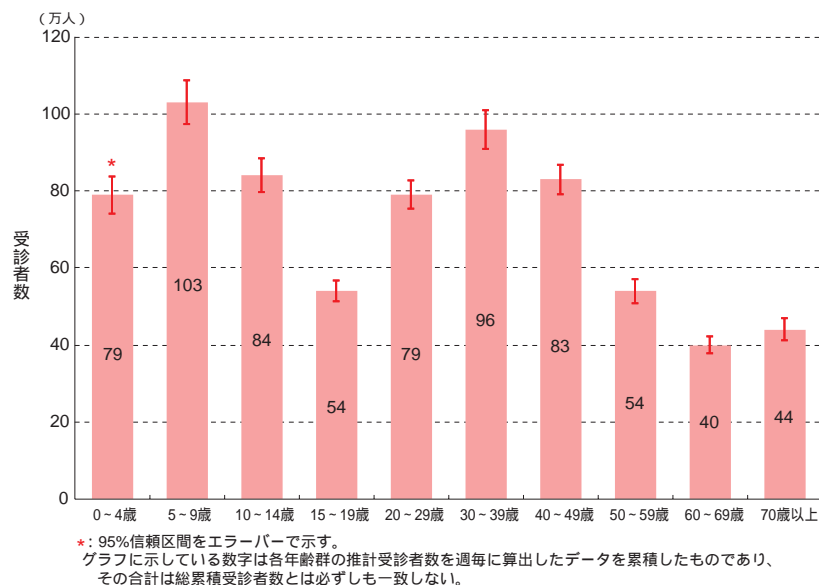
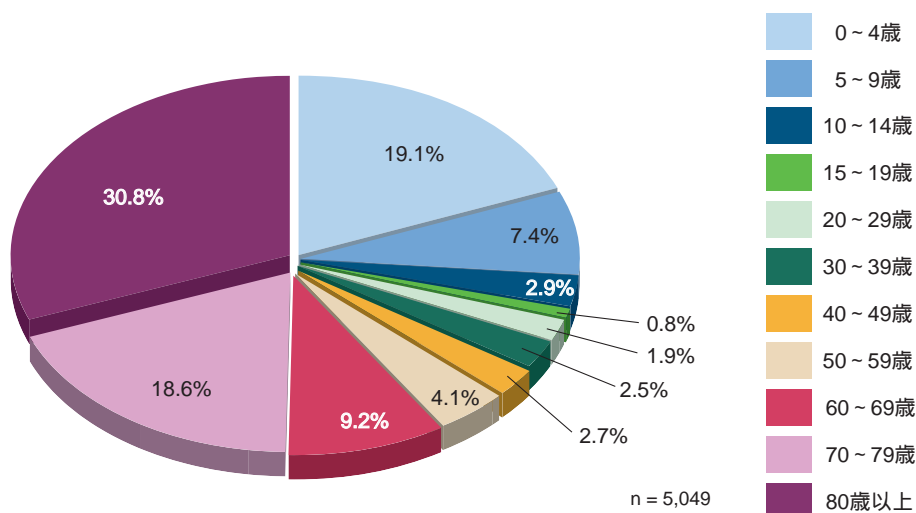


図3. インフルエンザの年齢群別累積推計受診者数(暫定値)
(2012年第36週～2013年第5週)



全国約500カ所の基幹病院定点からのインフルエンザによる入院患者の報告数をみると、2013年第5週の報告数は1,402人であり、2012年第36週以降これまでの累積報告数は5,049人となった。累積報告数の年齢群別内訳は、80歳以上1,556人(30.8%)、0～4歳965人(19.1%)、70代941人(18.6%)、60代465人(9.2%)、5～9歳374人(7.4%)の順であり、60歳以上と9歳以下の入院例が全体の85.2%を占めている(図4)。

図4. インフルエンザ入院患者の累積報告数の年齢群別割合(基幹定点からの報告)
(2012年第36週～2013年第5週)



インフルエンザの重篤な合併症であるインフルエンザ脳症は、2004年4月より急性脳炎の発生動向調査の一環として報告されるようになった。今シーズンはこれまでに16都道府県から33例(男性19例、女性14例、33例中5例は死亡報告あり)の報告があった。診断週別にみると、2012年第51週以降継続的に報告があり、2013年第3週に11例と最多の報告数となっているが、第4週、第5週の報告数は今後さらに増加する可能性がある(図5)。年齢は0～80歳(中央値8歳、平均値23.2歳)で、これまでのところ小児では5歳が4例と最も多く、成人では60～79歳の年齢群が6例となっている(図6)。ウイルス型別ではA型26例(78.8%)、うちAH1pdm09が0例、AH3亜型が3例、B型3例(9.1%)、型別不明4例(12.1%)となっており、今シーズンの流行を反映してA型が多数を占めている(図5)。

2012年第36週～2013年第4週までに国内では1,783検体のインフルエンザウイルスの検出が報告されており、AH1pdm09が49件(2.7%)、AH3亜型(A香港型)が1,597件(89.6%)、B型が137件(7.7%)と、これまでのところAH3亜型が大半を占めている状態が続いている。

第5週はインフルエンザの報告数は前週より減少したが、全国的にはまだ本格的な流行が続いている。今後ともインフルエンザの発生動向には注意深い観察が必要である。

図5. インフルエンザ脳症のウイルス型/亜型別報告数及び
インフルエンザの定点当たり報告数週別推移(2012年第36週～2013年第5週)

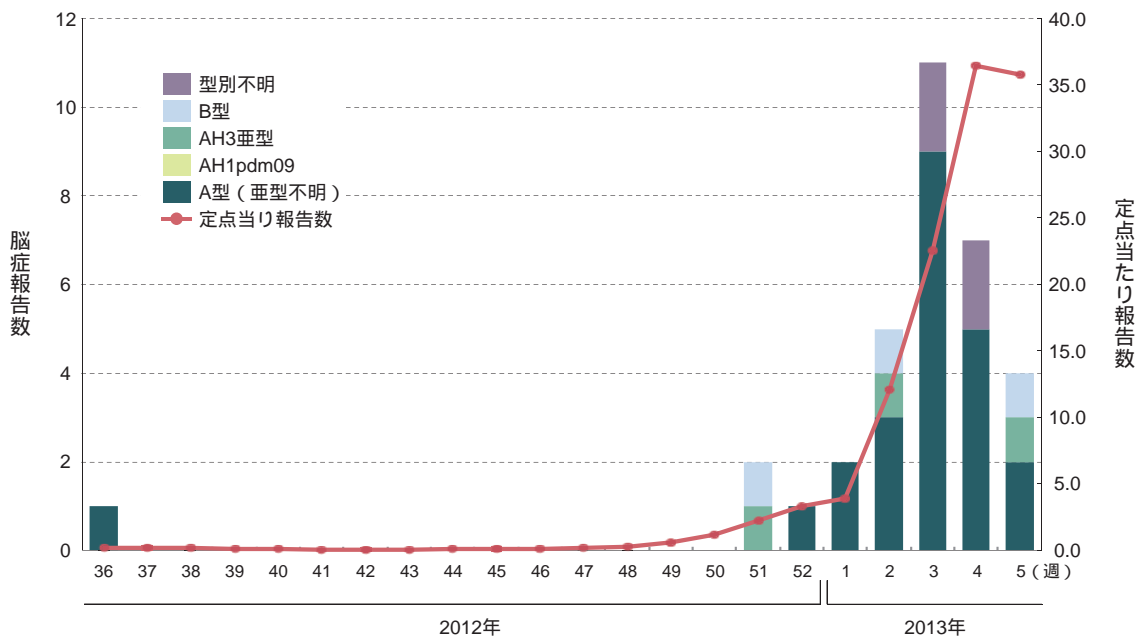
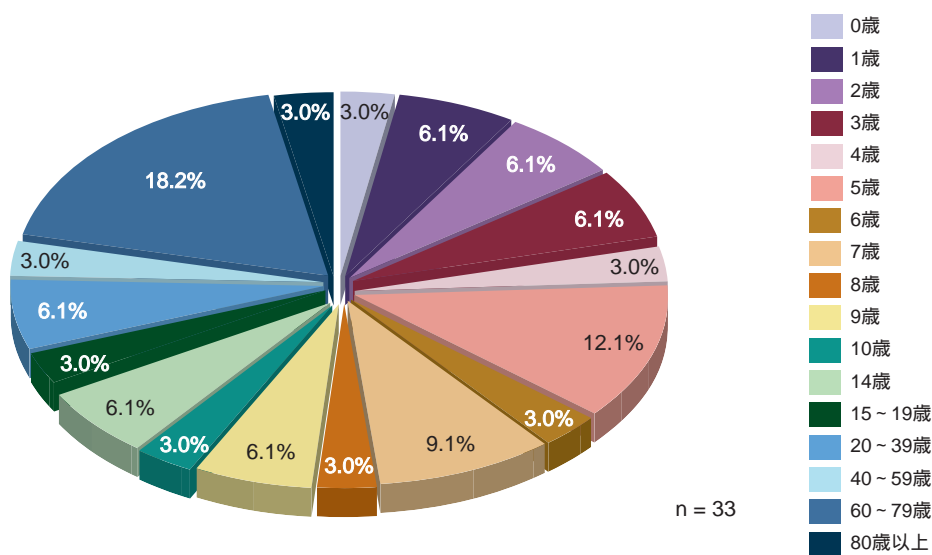


図6. インフルエンザ脳症の年齢群別割合(2012年第36週～2013年第5週)





病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>)からの引用です。

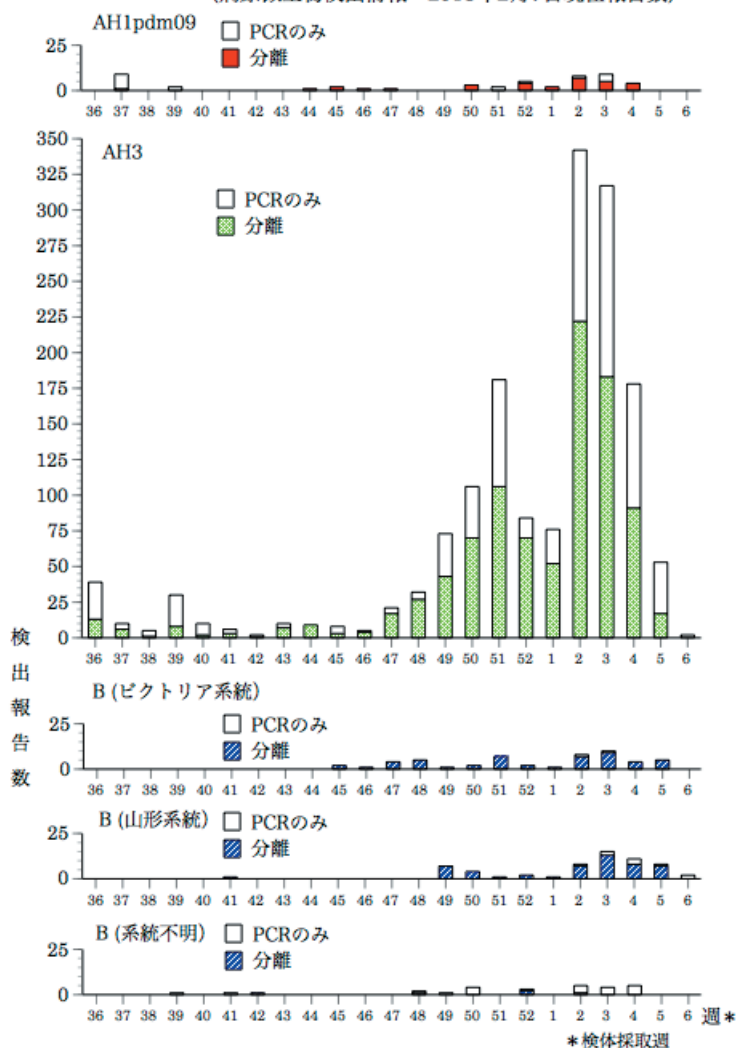
国立感染症研究所・感染症情報センターには各都道府県市の地方衛生研究所(地研)から「病原体個票」と「集団発生病原体票」が報告されています。これには感染症発生動向調査の定点およびその他の医療機関、保健所等で採取された検体から検出された病原体の情報が含まれています。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2013年2月7日現在報告分)

インフルエンザウイルス 2012/13シーズン

2012/13シーズン(2012年第36週/9月～2013年第35週/8月)は当初よりAH3亜型が主に検出され、2012年第47週以降増加し始めた。年末年始は一旦減少したが、2013年第2週から再増加している。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2012年第36週～2013年第6週
(病原微生物検出情報：2013年2月7日現在報告数)



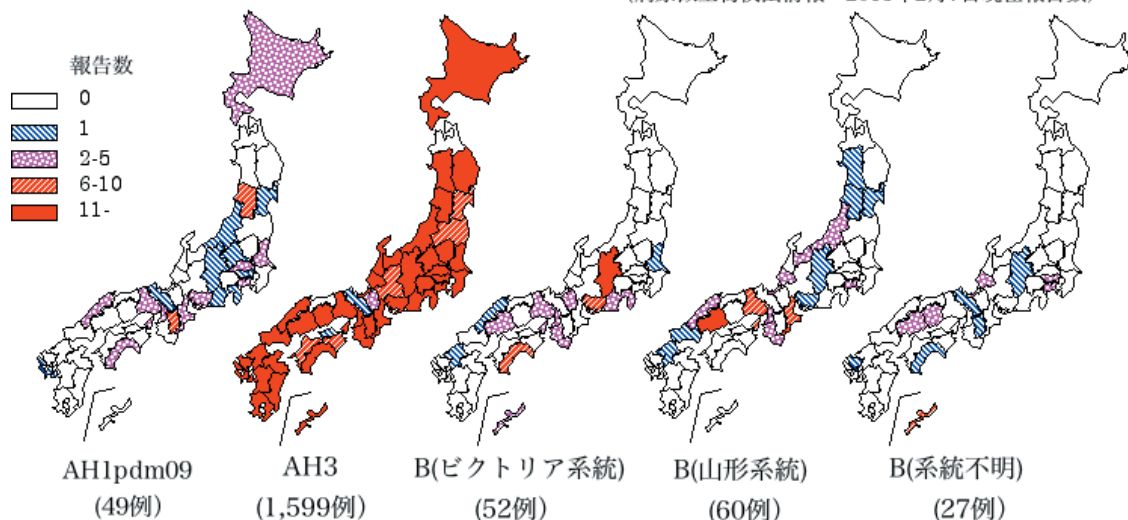
(データは現在週および過去の週に遡って追加が見込まれる)
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



Infectious Agents Surveillance Report

2012年第36週～2013年第6週の累積では、AH1pdm09が20都道府県から49件、AH3亜型が45都道府県から1,599件、B型はビクトリア系統株が13府県から52件、山形系統株が17府県から60件、系統不明株が11都府県から27件報告されている。

都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2012年第36週～2013年第6週
(病原微生物検出情報：2013年2月7日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

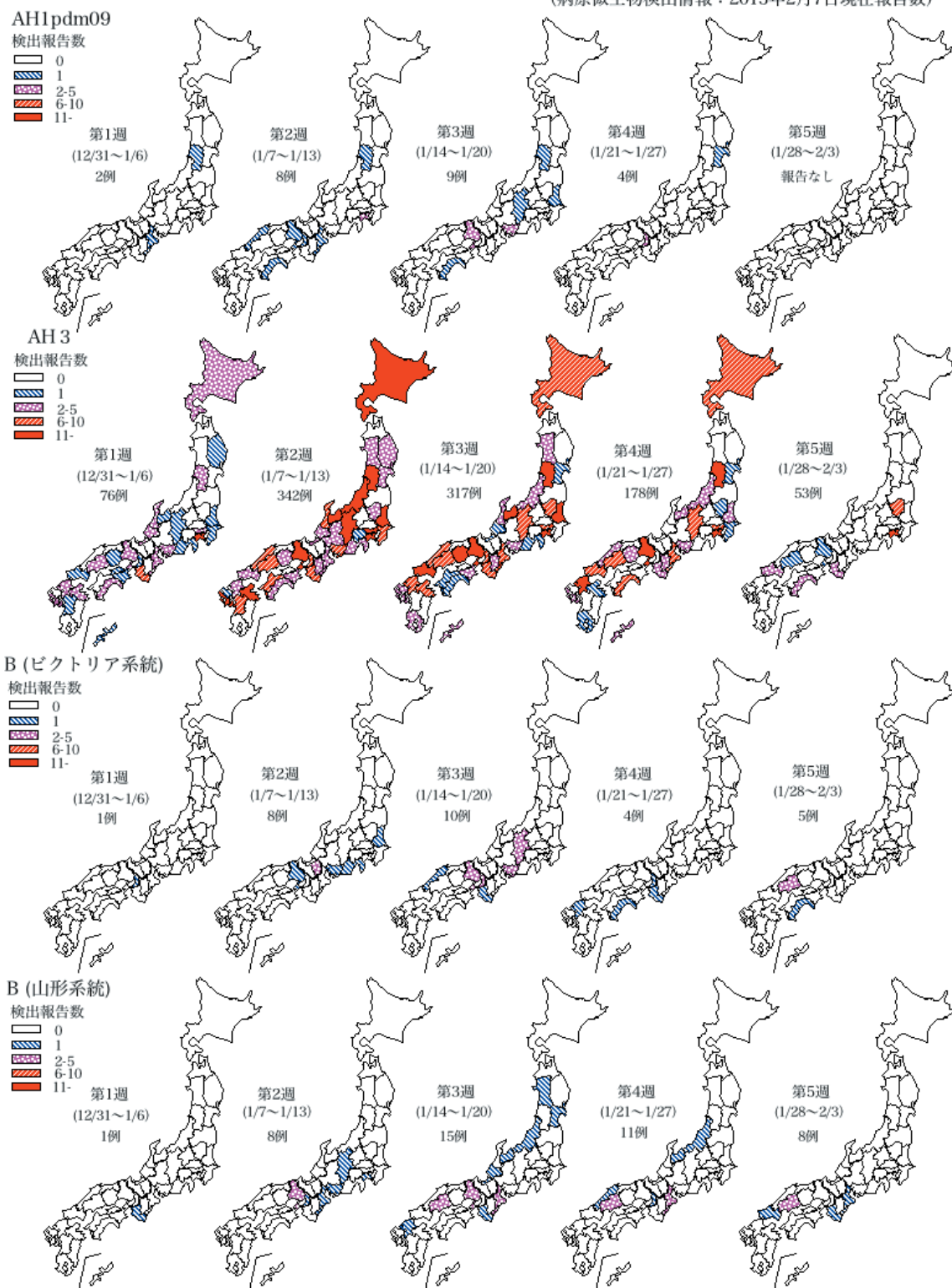


2013年第1～5週の5週間では、AH1pdm09が11府県から23件(大阪府4件、山形県、愛知県、兵庫県各3件、神奈川県、三重県、高知県各2件、宮城県、茨城県、長野県、島根県各1件)、AH3亜型が39都道府県から966件(神奈川県197件、茨城県71件、兵庫県63件、山形県57件、富山県43件、北海道40件、山口県33件、東京都32件、和歌山県31件、長野県、広島県各30件、福岡県27件、大分県26件など)、B型はビクトリア系統株が12府県から28件(滋賀県、大阪府、広島県各4件、愛知県、兵庫県各3件、長野県、和歌山県、高知県各2件、茨城県、静岡県、島根県、福岡県各1件)、山形系統株が16府県から43件(広島県13件、三重県7件、兵庫県5件、和歌山県3件、新潟県、富山県、大阪府各2件など)、系統不明株が7県から14件(沖縄県5件、神奈川県3件、広島県2件、福井県、奈良県、高知県、佐賀県各1件)報告されている。

インフルエンザウイルス分離・検出速報は <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html> を参照ください。

週別都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2013年第1週～第5週

(病原微生物検出情報：2013年2月7日現在報告数)



*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を検体採取週別に図に示した





海外感染症情報

*関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

インフルエンザ - 更新178

2013年1月31日 WHO

【要約】

- ・北米のインフルエンザの活動性は高いままですが、ほとんどの指標が減少し始めました。北米ではインフルエンザA(H3N2)が最も多く検出されている亜型でした。米国では、65歳以上の高齢者で肺炎の患者数とインフルエンザに関連した死亡者数が急増していると報告されました。
- ・ヨーロッパでは、全体的に、過去数週間でインフルエンザウイルスの検出が増加していると報告されましたが、北西部の数か国では活動性が減少し始めました。ヨーロッパで最も多く検出されているウイルスはインフルエンザA(H1N1)pdm09ですが、西ヨーロッパの数か国ではインフルエンザB型ウイルスが優勢です。
- ・アジアの温帯地域では、インフルエンザウイルスの検出は過去数週間で増加しましたが、アジアの熱帯地域のほとんどの国では依然として低い状態にあります。
- ・アフリカ北部と地中海東部のインフルエンザの活動性は、過去数週間で全体的に減少しましたが、数か国では増加したと報告されました。この地域で、最も多く検出されたウイルスはインフルエンザA(H1N1)pdm09でした。
- ・熱帯地域のほとんどの国では低い水準の活動性と報告されましたが、ボリビアとパラグアイでは若干の増加がみられています。
- ・現在、南半球では、インフルエンザの活動性はシーズンオフの水準です。

【北半球の温帯地域】

・北米

北米では、第3週(1月13日から19日)におけるインフルエンザの活動性は依然として高い状態にあります。数か所の地域では活動性が減少しましたが、カナダと米国はいずれもインフルエンザの広範囲な伝播を報告しました。

カナダでは、検査で確定されたインフルエンザの患者数は第3週に連続して減少しましたが、多くの地域では依然として広範囲で局地的な活動性と報告されました。国全体でのインフルエンザ様疾患(ILI)の受診率は、第2週の54.0/1,000人から、第3週には43.8人に減少し、4週連続で減少しました。インフルエンザウイルスが陽性となった検体の割合も、同時期で30.8%から27.1%に若干減少し、昨年末から持続的に減少しています。過去4週間の国全体のILI受診率は15年の平均受診率の90%信頼区間をわずかに上回りました。インフルエンザの集団発生は、1月第2週に、病院、長期療養施設、学校で130件が報告されましたが、これは、過去2シーズンのピーク時の2倍以上の件数です。また、総合サーベイランスシステムによって、2,212人のインフルエンザに関連した入院患者が報告されましたが、既に、前シーズンの合計1,777人を超えています。年齢が把握できた入院患者2,209人の半数以上(57.6%)が65歳以上で、13.3%が0歳から4歳でした。シーズン当初からインフルエンザに関連した死亡は146人と報告されましたが、その81.5%が65歳以上でした。シーズン当初から、予防接種監視活動(IMPACT)ネットワークによって、16歳未満のインフルエンザに関連した入院患者は461人と報告されましたが、その45.1%は24か月未満でした。

1月第3週に、2,840株のインフルエンザウイルスが検出されましたが、97.9%がインフルエンザ

A型であり、2.1%がインフルエンザB型でした。亜型が解析されたインフルエンザA型のうち、90.6%がインフルエンザA(H3N2)で、9.4%がインフルエンザA(H1N1)pdm09でした。型と亜型の相対的な割合はシーズンを通して同様でした。シーズン当初から報告された小児のインフルエンザに関連した入院患者461人のうち、96.3%(461人中444人)がインフルエンザA型に関連し、3.7%(461人中17人)がインフルエンザB型に関連していました。インフルエンザA型ウイルスのほとんど(84.7%)は亜型解析されていませんが、亜型のデータが得られたもののうち、89.7%(68人中61人)がインフルエンザA(H3N2)で、10.3%(68人中7人)はインフルエンザA(H1N1)pdm09でした。成人の入院患者の型と亜型の割合は小児の入院患者のものと同様でした。

シーズン当初から、国立微生物学研究所で285株のインフルエンザウイルスの抗原解析が行われました。285株のうち、201株がインフルエンザA(H3N2)で、37株がインフルエンザA(H1N1)pdm09で、47株がインフルエンザB型でした。インフルエンザA(H3N2)はワクチン株のA/Victoria/361/2011に抗原的に類似しており、インフルエンザA(H1N1)pdm09はワクチン株のA/California/7/2009に類似していました。インフルエンザB型ウイルスのうち、37株はワクチン株のB/Wisconsin/01/2010(山形系統)に抗原的に類似しており、10株はB/Brisbane/60/2008(ビクトリア系統で、2011年から2012年の季節性インフルエンザワクチンに含まれていた株)に類似していました。今シーズンは、これまでのところ、274株のインフルエンザウイルスで薬剤感受性試験が行われましたが、ノイラミニダーゼ阻害薬のオセルタミビルまたはザナミビルに対する耐性が認められた検体はありませんでした。

米国では、1月第3週のインフルエンザの活動性は高い水準が続いていますが、いくつかの地域では減少しました。国全体の活動性は昨年12月末の2週間でピークに達したようです。国全体では、ILIの外来受診率は、昨年の最終週に6.1%とピークに達した後、4週連続で減少し、4.3%でした。インフルエンザが陽性となった検体の割合も、昨年12月最終週の37.6%から26.1%と減少しました。最近の報告では、47州でインフルエンザの活動性が広範囲であると報告しています。122都市の死亡報告システムを通して報告された肺炎とインフルエンザによる全死亡の割合は、1月第3週に9.8%に急増し、流行閾値の7.3%を上回りました。過去10年間では、2007年から2008年のシーズンで報告された9.1%が最高でした。その年は、肺炎とインフルエンザによる死亡は8週連続で流行閾値を超えました。一方、これまでにインフルエンザに関連した小児の死亡は34人報告されました。インフルエンザに関連した死亡は、2011年から2012年のシーズン中に37人、2010年から2011年のシーズン中に122人、2009年から2010年のシーズン(パンデミック)中に282人が報告されました。シーズン当初から、検査で確定診断されたインフルエンザに関連した入院患者は6,191人と報告されており、人口10万人当たり22.2でした。入院患者はピークに達していませんが、過去2シーズンに比べると高いですが(2011年から2012年のシーズンは8.6、2010年から2011年のシーズンは21.4)、2009年から2010年のシーズン(29.0)ほど高くはありません。しかし、65歳以上では人口10万人当たり97.7であり、2009年から2010年の25.3、2010年から2011年の64.0、2011年から2012年の30.5に比べ高くなっています。

カナダとは対照的に、米国では、検出されたインフルエンザウイルスのうちインフルエンザB型の割合が高くなっています。シーズン当初から報告されたインフルエンザウイルス40,962株のうち、80.1%がインフルエンザA型で、19.9%がインフルエンザB型でした。しかし、カナダと同様、亜型のデータが得られたインフルエンザA型のうち、98%はインフルエンザA(H3N2)でした。シーズン当初から、疾病予防管理センター(CDC)は751株のインフルエンザウイルスの抗原解析を行いました。インフルエンザA(H1N1)pdm09の54株は、いずれも、A/California/7/2009-likeで、インフルエンザA(H3N2)の99.6%(465株中463株)は、A/Victoria/361/2011-likeでした。いずれも、

北半球で今シーズンに使用されている3価の季節性インフルエンザワクチンに含まれるものです。解析された232株のインフルエンザB型ウイルスのうち、69%(232株中160株)は今シーズンに使用されている3価の季節性インフルエンザワクチンに含まれるB/Wisconsin/1/2010-like(山形系統)であり、31%(232株中72株)はビクトリア系統でした。

シーズン当初から検査された、762株のインフルエンザA(H3N2)、274株のインフルエンザB型ウイルスでは、ノイラミニダーゼ阻害薬であるオセルタミビルとザナミビルに対する耐性は認められませんでした。インフルエンザA(H1N1)pdm09は119株が検査され、1月第3週に初めてオセルタミビル耐性株が報告されました。

・ヨーロッパ

ヨーロッパの1月第3週におけるインフルエンザの活動性は、過去の報告に比べて、大部分の国で増加しましたが、特に北西部の数か国では若干の減少も報告されました。インフルエンザの活動性は、前回の報告では19か国でしたが、17か国で報告されました。減少傾向を報告したのは、前回の報告では2か国のみでしたが、5か国(デンマーク、アイルランド、オランダ、ノルウェー、英国)でした。ILIと急性呼吸器感染患者の検体のインフルエンザ陽性率は約40%で、3週連続でほぼ同様となりましたが、西部では、昨年12月末にピークに達した後、若干減少しました。

各国のILI患者の報告数は昨シーズンと同様です。英国では、報告された呼吸器疾患による死亡者数と全死亡者数は昨シーズンと同様でした。ヨーロッパ死亡率監視プロジェクトに参加している13か国から報告された全死亡者数も過去の平均値に近い数でした。

ヨーロッパで最も多く検出されている亜型はインフルエンザA(H1N1)pdm09でしたが、国によって割合は異なり、シーズン当初から変化しました。シーズン当初には、定点及び定点以外から報告されたインフルエンザウイルス16,457株のうち、69%がA型で31%がB型でした。しかし、チェコ、ドイツ、ポーランド、ロシアを含む東ヨーロッパの多くに国ではインフルエンザA型の割合が増加したと報告されたのに対し、アイルランド、イタリア、英国を含む西ヨーロッパの数か国ではインフルエンザB型の検出が増加しました。インフルエンザA(H1N1)pdm09は、シーズン中に増加し、1月第3週に亜型のデータが得られたインフルエンザA型ウイルスのうち80%を占めました。しかし、シーズン全体では、インフルエンザA(H1N1)pdm09の割合は68%に留まっており、インフルエンザA(H3N2)が32%を占めました。注目すべきこととして、英国では、外来患者で検出されたウイルスはインフルエンザB型が多く、全年齢の入院患者から検出されたウイルスは、インフルエンザA(H1N1)pdm09とA(H3N2)が多くを占めます。ヨーロッパの定点機関のデータでは、ILIや急性呼吸器感染症(ARI)患者の検体から検出されるウイルスの割合と入院患者の検体から検出されるウイルスの割合は同様です。

シーズン当初から、解析されたウイルスの大部分は、現在の北半球で使用されている季節性インフルエンザワクチンに含まれるウイルス株と抗原的に類似していました。

シーズン当初から、7か国で196株のウイルスに対してノイラミニダーゼ阻害薬(オセルタミビルとザナミビル)の感受性検査が行われましたが、すべて感受性がありました。

・アフリカ北部と地中海東部

アフリカ北部と地中海東部では、過去5週間以上にわたり陽性検体数は減少しましたが、増加を報告した国もあります。現在の報告では、アルジェリア、イスラエル、イラン^{*1}、パキスタンでインフルエンザの活動性が増加しました。アフリカ北部では、チュニジアも伝播が増加したと報告

しました。イランとカタールではインフルエンザの活動性が減少しています。多く検出されたウイルスは国によって異なりました。パキスタンとカタールでは、インフルエンザB型が多く検出されましたが、アルジェリア、イラン^{*1}、イラクでは、インフルエンザA(H1N1)pdm09が多く検出されました。イスラエルでは、インフルエンザA(H3N2)とA(H1N1)pdm09がほぼ同数と報告されました。

^{*1}: 出典通りに仮訳しています。

・アジアの温帯地域

中国北部、モンゴル、韓国を含むアジアの温帯地域のほとんどで、1月第3週はインフルエンザの活動性が増加し続けました。中国北部では、国内定点機関から報告されたILIの割合は5.1%で、前回の報告(4.2%)と同様でした。この地域ではインフルエンザA(H1N1)pdm09の割合が増加し、インフルエンザA(H3N2)の割合に近づいています。検出されたインフルエンザウイルスの99.2%(390株中387株)がインフルエンザAでした。亜型が解析されたインフルエンザA型のうち、54.3%がA(H3N2)、45.6%がA(H1N1)pdm09でした。

中国国家インフルエンザセンターで昨年10月から亜型が解析されたインフルエンザウイルスのうち、インフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルスの99%(101株)はA/California/7/2009-likeで、インフルエンザA(H3N2)ウイルスはすべて(397株)はA/Victoria/361/2011(H3N2)-likeでした。また、インフルエンザB/Victoriaウイルスの96%(121株)はB/Brisbane/60/2008-like、B/Yamagataウイルスはすべて(19株)B/Wisconsin/01/2010-likeでした。検査されたインフルエンザ検体で、ノイラミニダーゼ阻害薬であるオセルタミビルとザナミビルに耐性のあるものはありませんでした。

モンゴルでは、外来患者の受診率に基づくILIの活動性は若干増加しました。最近数週間のILI患者の多くは、RSウイルス、ライノウイルス、ヒトコロナウイルスなどの他の呼吸器感染症を起こすウイルスに関連していました。

韓国でのインフルエンザの活動性は増加し続けており、インフルエンザA(H3N2)とA(H1N1)pdm09が検出されました。日本でのインフルエンザの活動性は依然として低く、優勢な亜型はインフルエンザA(H3N2)でした。

【熱帯地域】

・アメリカ大陸の熱帯地域

中米とカリブ海では、1月第3週のインフルエンザの活動性は前週と比較し、ほぼ同じか減少し、晩夏のピークから減少し続けました。最も多く検出されるウイルスはインフルエンザA(H3N2)とB型であり、例外的にキューバではインフルエンザA(H1N1)pdm09が見られました。フランス領のマルティニークとグアドループでは例年に比べ、ILIの受診者数が多くなっていますが、インフルエンザウイルスの報告はありませんでした。

南米全体では、インフルエンザの活動性は検出されないか、低い水準でしたが、パラグアイとボリビアでは例外的に、わずかに増加しました。パラグアイではA(H3N2)とインフルエンザB型が循環し、ボリビアではインフルエンザA(H3N2)のみの循環が中等度に増加したと報告されました。

・中部アフリカ

中部アフリカのほとんどの国ではインフルエンザの検出は減少しました。以前にコンゴ民主共和国とガーナで循環していたインフルエンザA(H1N1)pdm09は、現在シーズンオフの水準まで減少しました。カメルーンとマダガスカルでは、依然として、インフルエンザB型が低い水準で報告

されました。

・ アジアの熱帯地域

東南アジアのほとんどの国では、インフルエンザの活動性は前週と同様でした。カンボジア、スリランカ、タイ、ベトナムでは低い水準での循環が続いています。

インドでのインフルエンザ活動性はシーズンオフの水準で、低い検出数で、検出されたウイルスは主にインフルエンザA(H1N1)pdm09で、インフルエンザBも少数検出されました。スリランカでは、依然として、3種類の型・亜型が循環していますが、タイでは、インフルエンザA(H3N2)とインフルエンザB型が検出されました。カンボジアとベトナムでは、主にインフルエンザB型ウイルスの伝播が報告されました。

シンガポールと、香港を含む中国南部でのインフルエンザの活動性は、依然として、シーズン閾値より低い水準です。中国南部では、インフルエンザA(H1N1)pdm09の割合が増加し、インフルエンザA(H3N2)の割合を上回りました。検出されたインフルエンザウイルスのうち、97.5% (161株中157株)がインフルエンザA型でした。亜型が判明したインフルエンザA型のうち、47.2%がA(H3N2)、52.7%がA(H1N1)pdm09でした。

【南半球の温帯地域】

南半球の温帯地域のすべての国で、現在、インフルエンザの活動性は、シーズンオフの水準です。

カンボジアで鳥インフルエンザの患者が発生しました

2013年2月1日 WHO(GAR)

2月1日に公表された世界保健機関(WHO)の情報によりますと、カンボジアで、新たに鳥インフルエンザA(H5N1)患者5人が報告されました。

患者の詳細は、1月9日に発症したプノンペン(Phnom Penh)に住む8か月の男児、1月11日に発症したタケオ(Takeo)州に住む17歳の女性、1月13日に発症したコンプンスプー(Kampong Speu)州コンピセイ(Kong Pisey)地区に住む35歳の男性、1月13日に発症したコンプンスプー(Kampong Speu)州コンピセイ(Kong Pisey)地区に住む17か月の女児、1月15日に発症したコンポット(Kampot)州に住む9歳の女児です。

患者はすべて発熱、咳、他のインフルエンザ様症状(ILI)がありました。患者のうち4人が死亡し、8か月の男児は軽いインフルエンザ様症状のみで回復しました。検体は国立公衆衛生研究所とカンボジアのパスツール研究所で検査されました。

初動調査の結果では、人から人への伝播を支持する根拠はなく、患者のうち4人は病気の家きんや死んだ家きんと濃厚接触があったことがわかっています。

保健省の緊急対応チームは、患者の濃厚接触者を特定し、5人の患者間の疫学的関連や必要に応じた予防的治療を開始するため、病院や地域で対応しています。さらに、家族に鳥インフルエンザの感染予防の方法を伝える公衆衛生の啓発活動も実施されています。チームは地域の保健センターでのILIの活動性や、患者発生地域での重症急性呼吸器感染症(SARI)の増加の有無について調べています。患者の濃厚接触者で、ILI症状のある人の鳥インフルエンザ検査結果は陰性でした。ILIやSARIに関する調査は今後2週間強化されます。地域では健康教育に関する啓発がなされています。WHOはカンボジア保健省を支援しています。

エジプトで、環境中の検体からポリオウイルスが検出されました

2013年2月11日 WHO(GAR)

2月11日付で世界保健機関(WHO)から公表された情報によりますと、エジプトの大カイロ都市圏の2か所の地域で、昨年12月2日と6日に採取された汚水検体から、野生株のポリオウイルス1型が分離されました。ウイルスは、汚水の中からのみ検出され、麻痺型ポリオの症例は、報告されていません。遺伝子解析の結果、ウイルスの系統はパキスタンのシンド(Sindh)州北部由来のウイルスに密接に関連していることが示されています。パキスタンは、国内で野生株のポリオウイルスの伝播が続いている3か国のうちの1か国です(他の2か国はナイジェリアとアフガニスタンです)。エジプトでは、複数の場所から定期的に汚水を採取して検査することを含む環境のサーベイランスが行われており、このサーベイランスでウイルスが検出されました。

野生株ポリオウイルスが検出された後、エジプト政府は、世界保健総会決議(Resolution WHA59.1)によって発行された国際的な発生反応ガイドラインに沿って、広範囲にわたる対応を行っています。2月2日から6日にかけて、環境検体が採取されたカイロの2か所の地域で追加の予防接種が行われ、3価経口ポリオワクチンの予防接種を受けた小児は155,000人を超えました。また、3月上旬には、カイロの全域で、300万人の小児を対象とした1価経口ポリオワクチン(1型)による追加の予防接種が計画されています。さらに、4月には、全国で1,200万人の小児を対象に3価経口ポリオワクチンによる追加の予防接種が計画されています。疫学者と公衆衛生の専門家で構成される国内外の共同チームが調査、対応活動の策定、麻痺型ポリオ患者の積極的な調査を支援しています。

この事例によって、根絶を目指している病原体が国際的に広がり続けていることが確認されました。昨年5月、世界保健総会決議(Resolution WHA65.5)によって、ポリオの根絶を達成することは世界的な公衆衛生上の緊急事態であると宣言されました。過去にはエジプトで輸入例が報告された歴史があることや、現在進められている対応に基づいて、WHOはエジプト由来のウイルス系統が国際的に広がるリスクは中程度であり、パキスタンから国際的に広がるリスクは高いと評価しています。2011年には、パキスタン由来の野生株ポリオウイルスが中国にまで広がり、西部の新疆ウイグル自治区で集団発生が起こり、21人の患者が発生しました。

新たなポリオウイルスの輸入を迅速に検出し、速やかに対応するために、すべての国(特にポリオウイルスの感染が起こっている国と頻繁に往来がある国)で急性弛緩性麻痺のサーベイランスを強化することが重要です。また、追加の予防接種が必要な地域間格差を確認するために、定期的な予防接種の接種率も分析すべきです。これによって、新たなウイルスの輸入が最小限になります。輸入の危険性が高い地域と、3回の経口ポリオワクチンと3回の3種混合(ジフテリア、百日せき・破傷風)ワクチンの接種率が80%未満の地域を優先すべきです。

エジプトは、2004年5月を最後に、国内での野生株ポリオウイルスの伝播はありません。陽性になった環境検体が採取されたのは昨年12月でした。その前に環境検体で野生株ポリオウイルスが陽性になったのは2010年12月で、スーダン由来のウイルスに関連していました。

新種のコロナウイルス感染症について(更新5)

2013年2月11日 WHO(GAR)

2月11日に公表されたWHO(世界保健機関)の情報によりますと、英国で新種のコロナウイルス(NCoV)に感染した確定患者が報告されました。患者は英国居住者で、1月26日に発症しました。呼吸器検体の検査でインフルエンザA(H1N1)pdm09と新種のコロナウイルス(NCoV)の重複感

染が確定されました。患者は集中治療室に入院しています。

初動調査の結果では、患者はパキスタンとサウジアラビアへ渡航していたことが明らかとなりました。詳しい調査は継続中です。

英国健康保護局(HPA)は、患者の周囲と、患者が発症中に暴露した可能性のある接触者に厳しい感染制御対策を実施しています。

これは散発的な症例であり、現在のNCoVに関するWHOのリスク評価を変更することはありませんが、新しい患者によって、ウイルスが持続していることを示しています。2月11日までに、合計10人の新種のコロナウイルス確定患者がWHOに報告されています。

現在の状況と利用可能な情報に基づいて、WHOはすべての加盟国へ、重症急性呼吸器感染症(SARI)の監視を継続し、通常でないパターンの症例を慎重に検討するよう推奨しています。原因不明の肺炎患者、または治療に反応しない重症、進行性、合併症のある患者への新種のコロナウイルスの検査は、特にアラビア半島と近隣諸国の居住者または帰国者で考慮しなければなりません。

重症急性呼吸器感染症の集団発生や、医療従事者の重症急性呼吸器感染症の患者発生は、世界のどこで起こったとしても、完全に調査すべきです。

新しい患者や集団発生が起きた場合、国の保健当局とWHOの両方に速やかに報告する必要があります。

WHOは、この事例に関して入国時の特別なスクリーニングおよび渡航や貿易を制限することを推奨していません。

ニジェールでポリオ患者が発生しました

2013年2月12日 WHO(GAR)

2月12日付で世界保健機関(WHO)から公表された情報によりますと、1月3日にニジェールで野生株のポリオウイルス1型の患者が発生した後、国内での対応が続いています。患者はタウア(Tahoua)州で発見され、昨年11月15日に発症しました(2011年12月以降、初めての患者です)。遺伝子解析の結果、ウイルスは新たにニジェールに入ってきたものであり、ナイジェリアのカドゥナ(Kaduna)州で循環しているウイルスと密接に関連していることが示されています。

ニジェール政府は、世界保健総会決議(Resolution WHA59.1)によって発行された国際的な発生反応ガイドラインに沿って、広範囲にわたる対応を行っています。1月15日に追加の予防接種が行われ、2価経口ポリオワクチンの予防接種を受けた小児は約200万人に達し、その後も2月2日から5日にかけて、全国で500万人以上の小児を対象とした3価経口ポリオワクチンによる追加の予防接種が行われました。全国での2回目の追加の予防接種は、3月2日から5日に、2価経口ポリオワクチンを使用して行われる予定です。これらの追加の予防接種の前には、昨年11月23日に全国で2価経口ポリオワクチンを使用した追加の予防接種が行われました。WHOアフリカ地域事務局から派遣された疫学者と公衆衛生の専門家から構成される国内外の共同チームが、ナイジェリア政府の調査、対応活動の策定、麻痺型ポリオ患者の積極的な調査を支援しています。

この事例によって、根絶を目指している病原体が国際的に広がり続けていることが確認されました。昨年5月、世界保健総会決議(Resolution WHA65.5)によって、ポリオの根絶を達成することは世界的な公衆衛生上の緊急事態であると宣言されました。過去にナイジェリアの北部から西アフリカへの輸入例が報告された歴史があるため、WHOは、ウイルスがナイジェリアからさらに国際的に広がるリスクは高いと評価しています。また、過去にニジェールで輸入例が報告された

歴史があることや、現在進められている対応に基づいて、WHOは、ウイルスがニジェールからさらに国際的に広がるリスクは中程度から高いと評価しています。現在、マリ治安悪化に伴い、この地域では大規模な人口の移動がみられているため、このリスクは高くなっています。このリスクを最小限にするために、西アフリカの13か国では、4月下旬から5月下旬の同時期に2価経口ポリオワクチンと3価経口ポリオワクチンを併用した追加の予防接種が計画されています。

西アフリカではサーベイランスが継続的に行われていない地域があるため、現時点では、まだ発見されていない循環を除外することはできません。定住しない集団、移民、サービスが行き渡らない集団を含め、地域におけるサーベイランスの格差をより明らかにするために調査が続けられています。地域でのサーベイランスを強化し、すべての集団と地域(特にリスクの高い集団)に質の高いサーベイランスを行えるように対策が実施されています。

WHOの国際旅行と健康(International travel and health)に示されている推奨の通り、ニジェールや他のポリオ患者が発生している国から海外に渡航する者も、それらの国に入国する者も、既定の回数の予防接種を受けるべきです。新たなポリオウイルスの輸入を迅速に検出し、速やかに対応するために、すべての国(特にポリオウイルスの感染が起こっている国と頻りに往来がある国)で急性弛緩性麻痺のサーベイランスを強化することが重要です。また、追加の予防接種が必要な地域間格差を確認するために、定期の予防接種の接種率も分析すべきです。これによって、新たなウイルスの輸入が最小限になります。輸入の危険性が高い地域と、3回の経口ポリオワクチンと3回の3種混合(ジフテリア、百日せき・破傷風)ワクチンの接種率が80%未満の地域を優先すべきです。



感染症の話

*本記事は、国立感染症研究所ホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>)に掲載されている各疾患の説明とは、を掲載しています。

AIDS(後天性免疫不全症候群) <後編>

病原診断

HIV感染症の診断は、臨床知見(指標疾患)による臨床診断に加え、検査室レベルでの診断が行われる。HIV検査は偽陽性判定を除く目的で、スクリーニング検査と確認検査の2段階で行われる(図10)。

1) スクリーニング検査

スクリーニング検査では感染検体を漏らさず検出することが求められることから感度が優先される。抗体検出法として凝集法(PA法)、酵素免疫抗体法(EIA)、イムノクロマトグラフィ法(IC法)があり、いずれもHIV-1/2抗体の両方が検出できる。現在は急性感染期の検出漏れがないよう、HIV-1/2抗体に加えてHIV-1抗原を検出することでウインドウ期を短縮できる第4世代の抗原・抗体同時検査法が推奨されている。

2) 確認検査

一方、感度より正確性が優先される確認検査では抗体確認検査としてウエスタン・ブロット法(WB法)が用いられている。しかしながら感度の高い抗原・抗体同時検査法で陽性の場合、十分な抗体量がないときには感度に劣るWB法では陰性あるいは判定保留(±)となる。WB法で判定保留、または陰性であっても感染初期が疑われる場合は核酸増幅検査(NAT)を行い、感染初期か否かを確認する。感染初期で抗体が弱陽性のケースや抗体の陽転前で抗原陽性のケースではWB法で判定ができないためNATを行う。

現在、体外診断薬として認可・販売されているHIV遺伝子検査法は、Real-Time RT-PCR法に基づくHIV-1検出系でありHIV-2は検出できない。核酸増幅定量測定系による検査は抗体産生がない急性感染期と感染母体からの移行抗体がある新生児の感染診断に必須である。またこれらの核酸増幅定量測定検査により血漿/血清中のウイルス量の検出・定量が可能なることから、HIV/AIDS治療における病態把握と治療効果の客観的な評価が可能になり、エイズ治療の評価・方針決定に大きな進展がもたらされている。またこの方法は、献血の安全性の確保のため

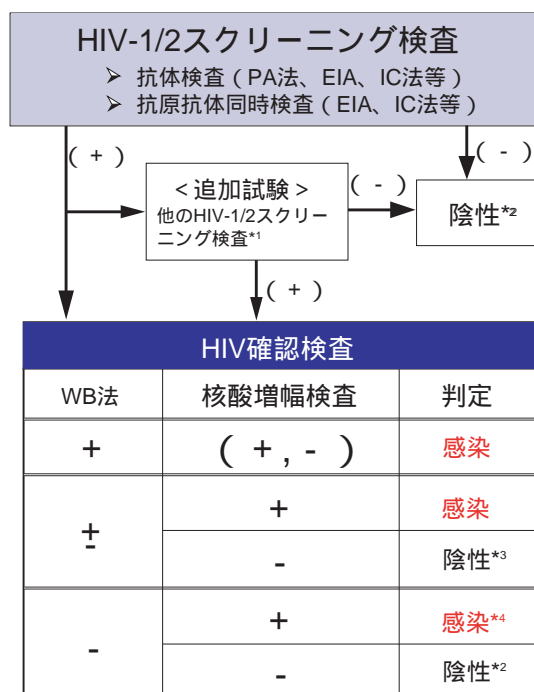


図10. HIV検査実施フローチャート

- *1) 一回目のスクリーニング検査より感度の高い検査法を使用する。
- *2) 感染初期の可能性が考えられる場合は、数週間後に採血し、再検査を実施する。
- *3) 感染の疑いがある場合は、数週間後に採血し、再検査を実施する。
- *4) WB法が陽性となるまでフォローアップすることが望ましい。

(原図: 病原体検出マニュアル エイズ/HIV感染症 近藤真智子)

にも応用され、実用化されている。抗体ウインドウ期にあたるHIV感染初期には一過性のウイルス血症があり、末梢血中に $10^{5-6}/\text{ml}$ におよぶウイルス粒子が出現することから、献血のために他の陰性血液とプール、希釈された後においても、ウイルスRNAを高感度に検出できる。このような核酸増幅法(NAT法)の導入によって、ウインドウ期にある献血者が未然に発見され、輸血用血液の安全性の確保に役立っている。

HIV感染診断法の詳細は感染研ウェブサイトに掲載の病原体検出マニュアル(http://www.nih.go.jp/niid/images/lab-manual/hiv_2011.pdf)を参照されたい。

治療

1) HIV感染症の薬物治療

3剤以上の抗HIV薬(Antiretroviral Drug: ARV)を組み合わせる多剤併用療法(Combination Antiretroviral Therapy: ART)が今日のHIV感染症の標準治療法である。ARTは1996年のプロテアーゼ阻害剤の実用化とともに始まり大きな治療実績をあげてきた。この15年間に多くのARVが開発されており、現在までに核酸系逆転写酵素阻害剤(Nucleoside Analogue Reverse Transcriptase Inhibitor: NRTI)、非核酸系逆転写酵素阻害剤(Non-Nucleoside RT Inhibitor: NNRTI)、プロテアーゼ阻害剤(Protease Inhibitor: PI)、インテグラーゼ阻害剤

クラス	一般名	商標名	認可年
ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤 (Nucleoside Analogue Reverse Transcriptase Inhibitor: NRTI)	Zidovudine(AZT)	レトロビル	1987
	Didanosine(ddl)	ヴァイデックス	1992
	Zalcitavine(ddC)	ハイビット	1996
	Stavudine(d4T)	ゼリット	1997
	Lamivudine(3TC)	エビビル	1997
	Abacavir(ABC)	ザイアジェン	1999
	Tenofovir(TDF)	ピリアード	2004
Emtricitabine(FTC)	エムトリバ	2005	
非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤 (Non-Nucleoside Analogue Reverse Transcriptase Inhibitor: NNRTI)	Nevirapine(NVP)	ヴィラミューン	1998
	Efavirenz(EFV)	ストックリン	1999
	Delavirdine(DLV)	レスクリプター	2000
	Etravirine(ETV)	インテレンス	2009
	Rilpivirine(RPV)	エジュラント	2012
プロテアーゼ阻害剤 (Protease Inhibitor: PI)	Saquinavir(SQV)	インビラーゼ	1997
	Ritonavir(RTV)	ノービア	1997
	Indinavir(IDV)	クリキシバン	1997
	Nelfinavir(NFV)	ビラセプト	1998
	Amprenavir(APV)	ブローゼ	1999
	Lopinavir(LPV)	カレトラ*	2000
	Atazanavir(ATV)	レイアタッツ	2003
Darunavir(DRV)	ブリジスタ	2007	
インテグラーゼ阻害剤 (Integrase Strand Transfer Inhibitor: INSTI)	Raltegravir(RAL)	アイセントレス	2008
CCR5阻害剤 (CCR5 Inhibitor)	Maraviroc(MVC)	シーエルセントリ	2009
融合阻害剤** (Fusion Inhibitor)	Enfuvirtide(INN)	Fuzeon	2003

*リトナビルとの合剤

**米国における情報(日本では未承認)

表2. 抗HIV薬剤一覧

は承認されていないが、融合阻害剤Enfuvirtideが米国をはじめ多くの国で使用されている。ARTの進歩は単に薬剤の種類が増えただけでなく、ARVの性能が改良されており、ART黎明期に比べると格段に強い抗ウイルス活性、長い血中半減期そして難薬剤耐性獲得性の実現されている。これらの改良は服薬回数の軽減につながり、治療の成功率は飛躍的に向上している。近年HIV感染病態の研究が進展し、それに伴いART治療戦略が変わりつつある。従来は慢性毒性のリスクを下げるために末梢血中CD4+T細胞数値が250個/μlを切るまでARTを保留していたが、最近では350個/μlで開始するARTの早期導入が推奨されている。一部では更に早く、500個/μlでの導入が提案されており、更に後述する感染防御の関連から診断後直ちに開始すべきであるという意見も出てきている。

2) 薬剤耐性の動向

厚生労働省研究班「薬剤耐性HIVの動向把握のための調査体制確立及びその対策に関する研究(以下薬剤耐性班)」では2003年より新規HIV/AIDS診断症例を対象に疫学調査を実施しているが、調査報告によれば我が国のHIV感染流行の主体は「日本人」、「男性」、「男性同性間性的接触(MSM)」そして「サブタイプB」であり(図3、4:前号参照)この傾向は調査を開始してから一貫している。新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIVの保有率は図11に示す様に2003年の5.5%以降徐々に検出率は増加しており2007年には約1割に達している。その後2008-2009年は顕著な増減は無く8.5%前後を推移している。観察される薬剤耐性変異の種類はNRTIが最も多く、次いでPI、そしてNNRTIとなっている。個別の変異についてみるとNRTI耐性のT215X、NNRTI耐性のK103N、そしてPI耐性のM46I/Lは毎年必ず検出されており、これらの変異を有する株は既に流行株としてハイリスク集団に定着していると危惧される¹⁾。

一方ARTにおける薬剤耐性の影響であるが、ARVの進歩により薬剤耐性が原因でウイルス学的治療失敗に陥る症例の頻度は少なく、薬剤耐性班による調査では2%以下であった²⁾。

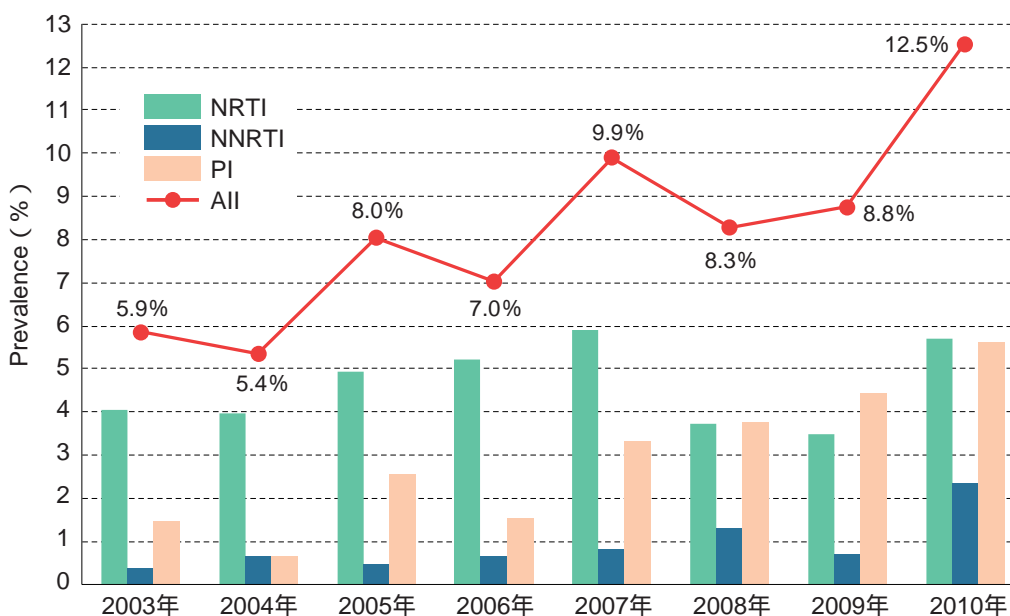


図11. 新規HIV/AIDS診断症例に観察される薬剤耐性変異獲得症例の頻度

< 最近の話題 : 感染予防戦略における抗HIV薬 >

2007年から2009年にかけて南アフリカにおいて行われた1% Tenofovir(TDF)ゲルの膣内投与臨床試験(CAPRISA004)では、TDFゲルを使用した被験者群でHIV感染率が有意に低い結果が得られ、HIVに暴露する前のARV投与がHIV感染予防に有効である事が実証された³⁾。さらに2011年には早期の治療導入が新たな感染拡大に有効だという研究成果が報告された(HPTN052)⁴⁾。これらの成果を基盤にして「治療」から「予防」へとその活用領域を広げつつある。もちろん抗HIV剤による予防には、何時誰を対象にどのような手段で投与をするのか、薬剤の副作用のリスク、薬剤耐性ウイルス選択のリスクなどまだ解決すべき問題は多いが、ARVによる予防戦略「 Treatment as Prevention : TASP 」は実現に向けて大きく舵が切られつつある。

発生動向調査について

感染症法に基づき、エイズ・HIV感染者の発生動向は、毎3カ月間隔で厚生労働省が主催するエイズ動向委員会によって、各都道府県を通じて厚生労働省に報告された過去3カ月間の症例を集計した結果に基づき分析がなされ、公表される。集計結果は、性別・感染原因、性別・年齢、性別・感染地域等のカテゴリー別にまとめられ、発生動向が多角的に分析され、厚生労働省ホームページ(<http://www.mhlw.go.jp>)に掲載される。

- 1) Hattori J, Shiino T, Gatanaga H, Yoshida S, Watanabe D, Minami R, et al. Trends in transmitted drug-resistant HIV-1 and demographic characteristics of newly diagnosed patients: Nationwide surveillance from 2003 to 2008 in Japan. *Antiviral Res* 2010;88:72-79.
- 2) Miyazaki N, Matsushita S, Fujii T, Iwamoto A, Sugiura W, Group" JH-MS. Drug-Resistant Genotyping to Guide Selection of Etravirine, Darunavir and Raltegravir in Salvage Therapy for Multi-Drug-Resistant Cases Improves Outcomes. In: 18th International AIDS Conference. Vienne Austria; 2010.
- 3) Karim QA, Karim SS, Frohlich JA, Grobler AC, Baxter C, Mansoor LE, et al. Effectiveness and Safety of Tenofovir Gel, an Antiretroviral Microbicide, for the Prevention of HIV Infection in Women. *Science* 2010.
- 4) Cohen MS, Chen YQ, McCauley M, Gamble T, Hosseinipour MC, Kumarasamy N, et al. Prevention of HIV-1 infection with early antiretroviral therapy. *N Engl J Med* 2011;365:493-505.

感染症法における取り扱い

「後天性免疫不全症候群」は全数報告対象(5類感染症)であり、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出なければならない。

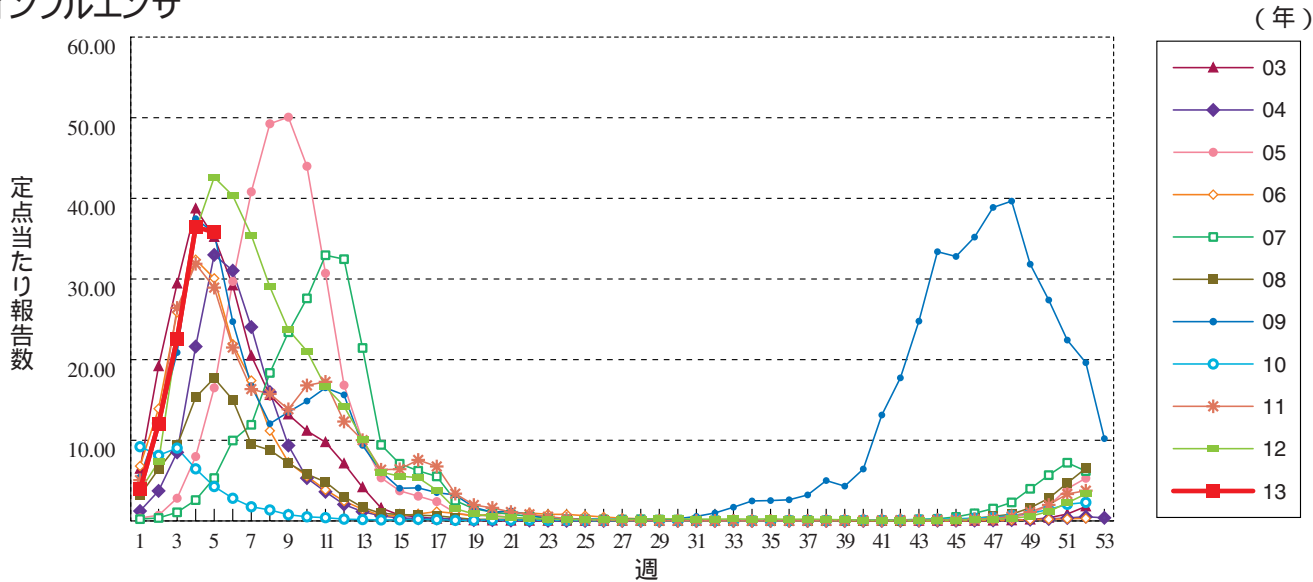
国立感染症研究所エイズ研究センター 吉村和久

病原診断: 巽 正志

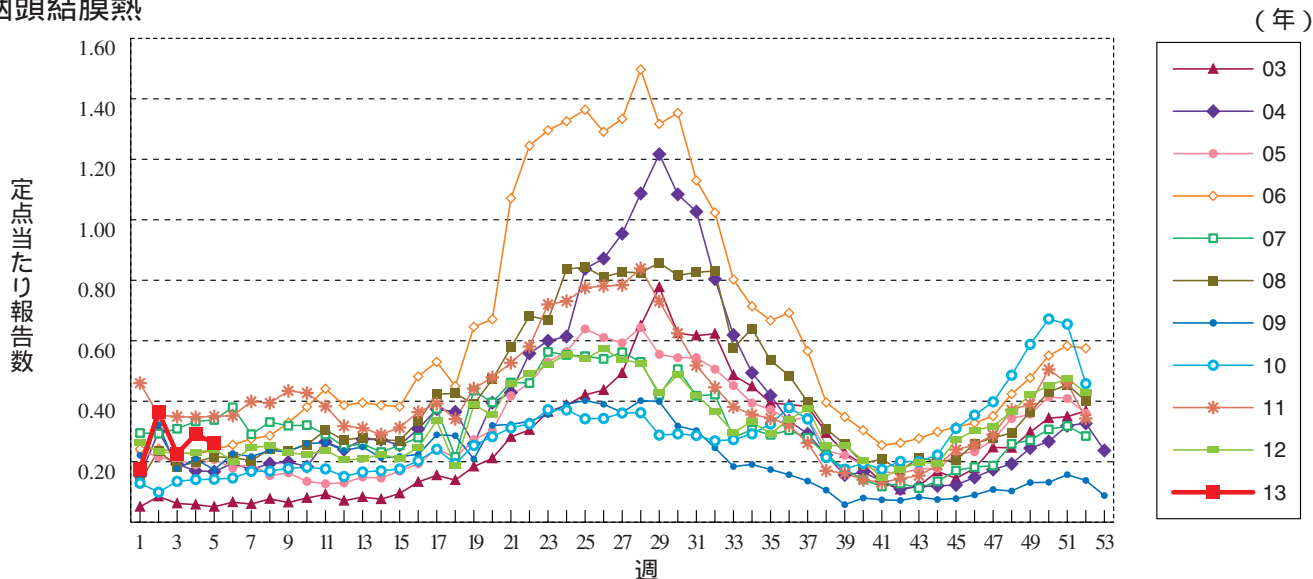
治療: 杉浦 互

グラフ総覧(5週)

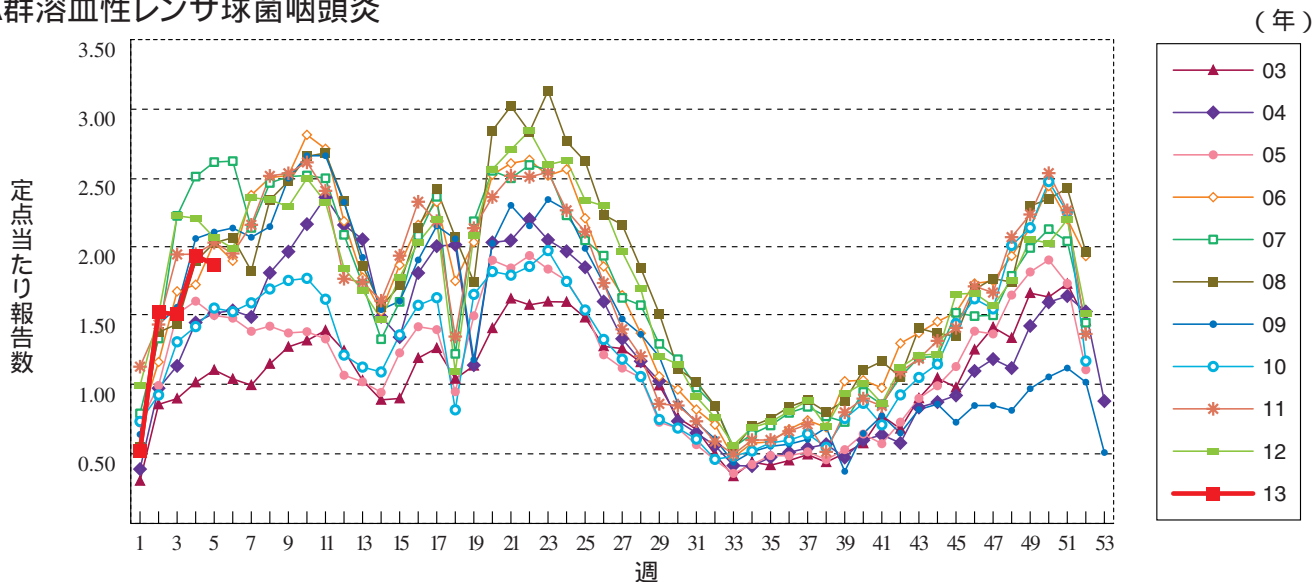
インフルエンザ



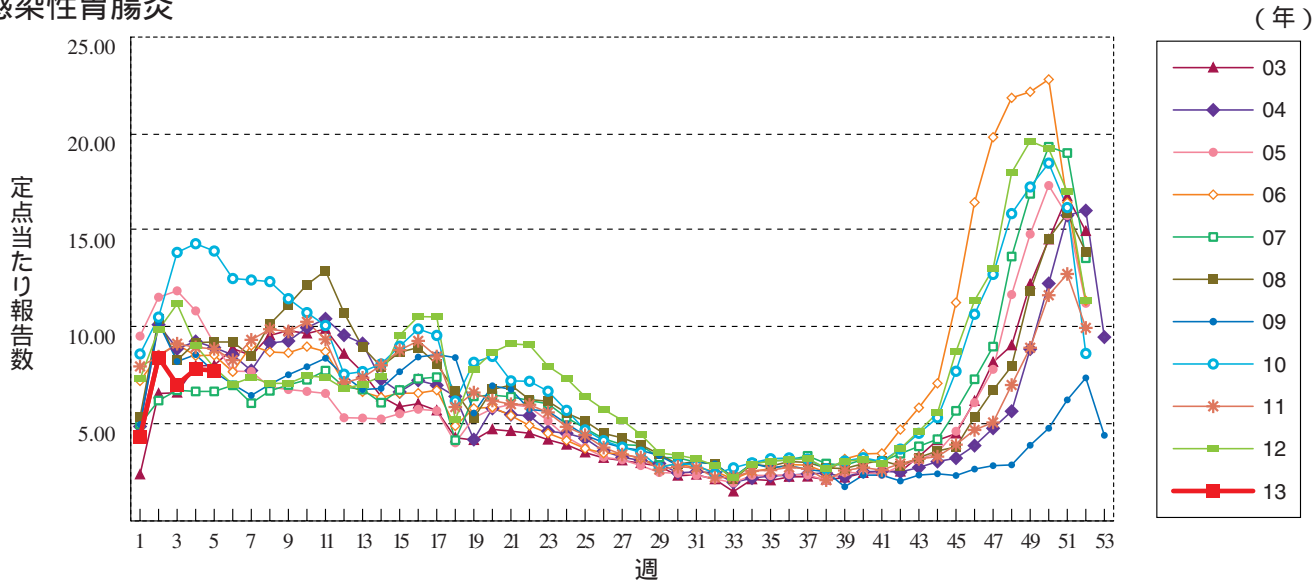
咽頭結膜熱



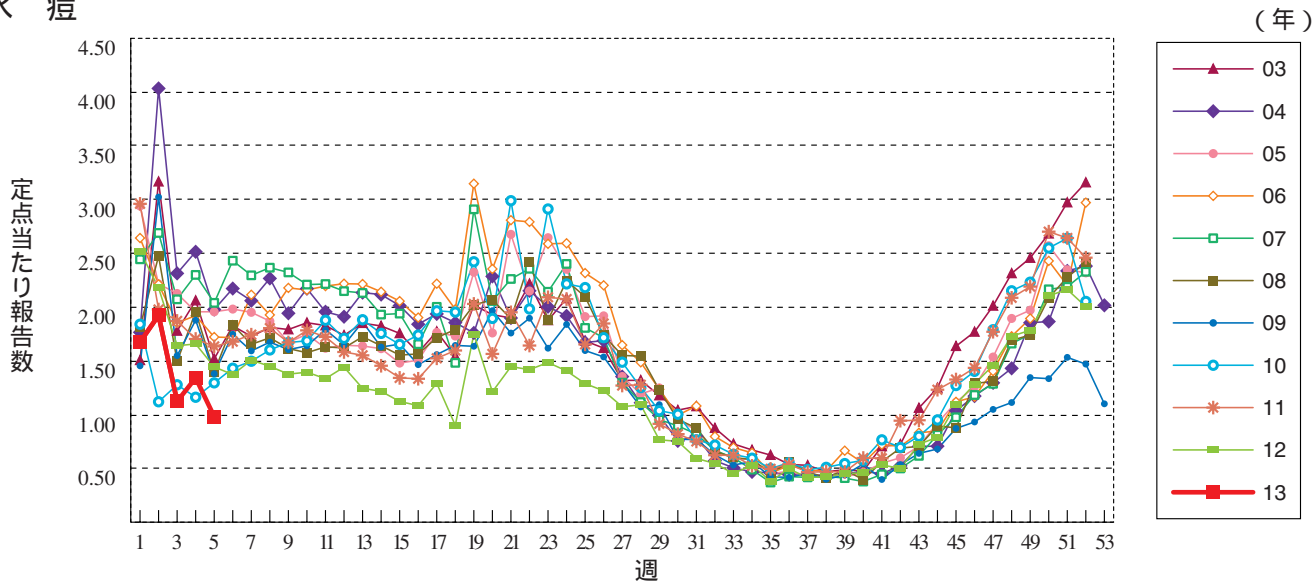
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



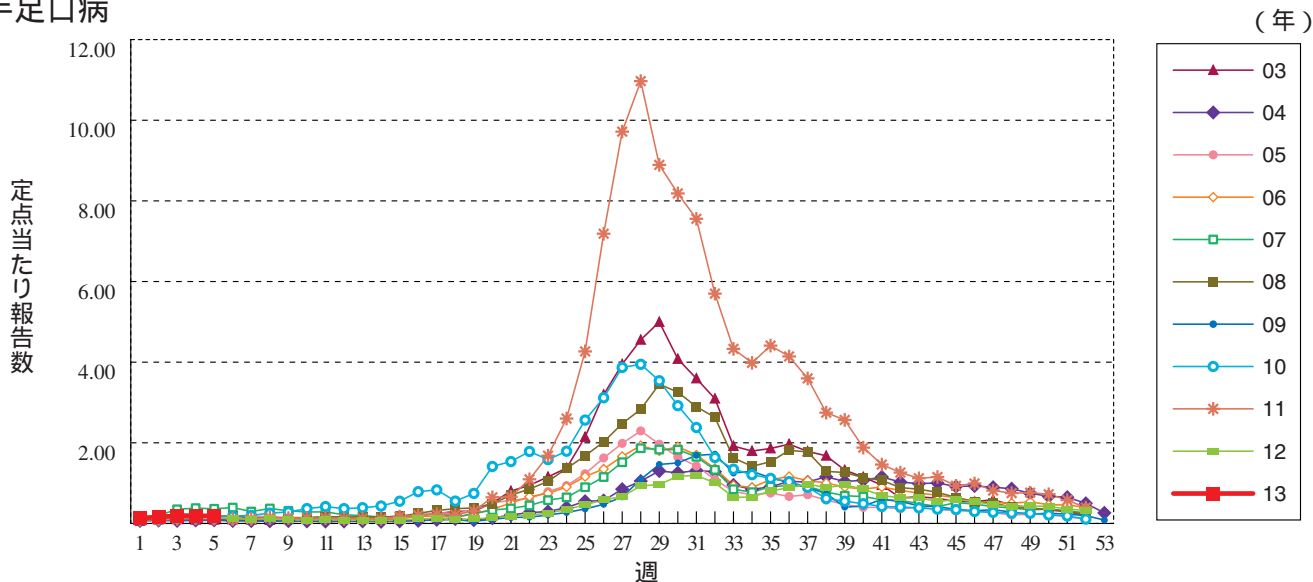
感染性胃腸炎



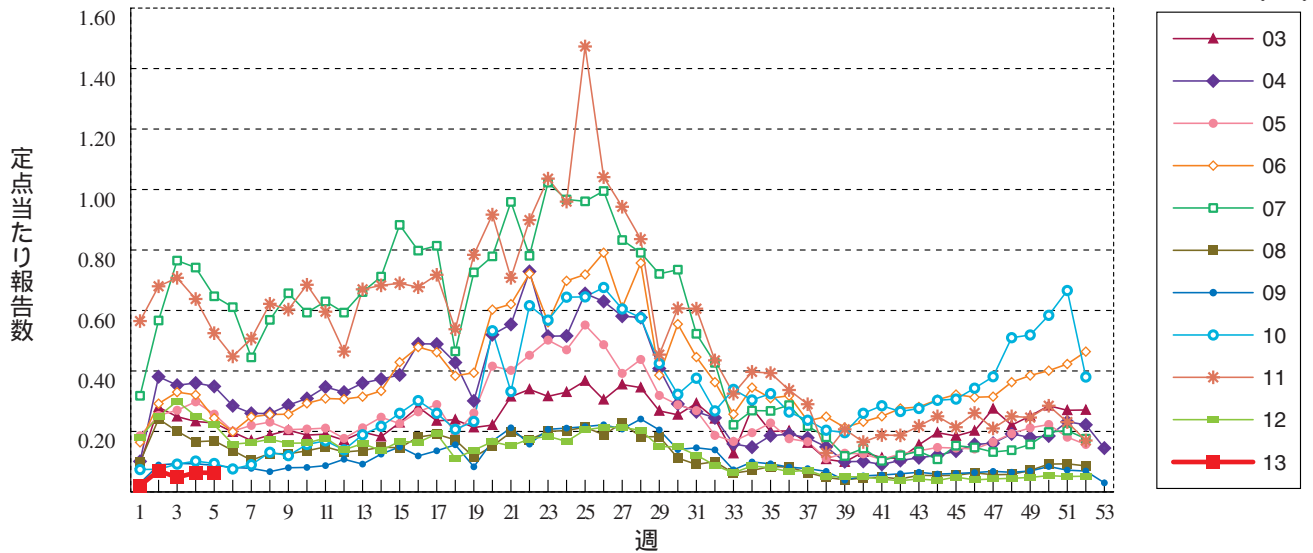
水痘



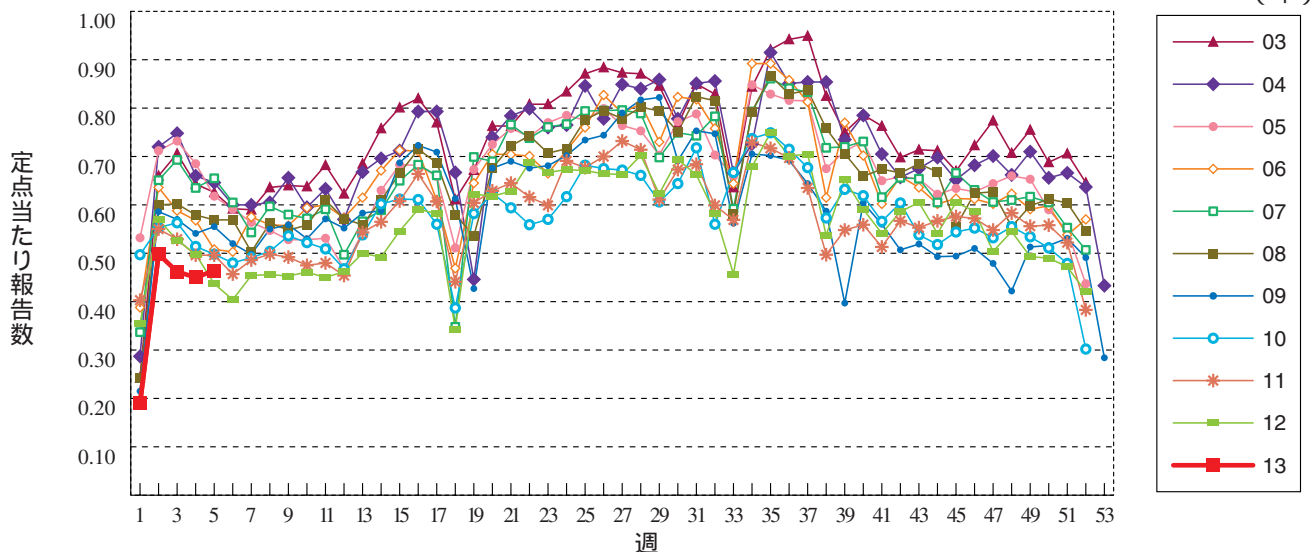
手足口病



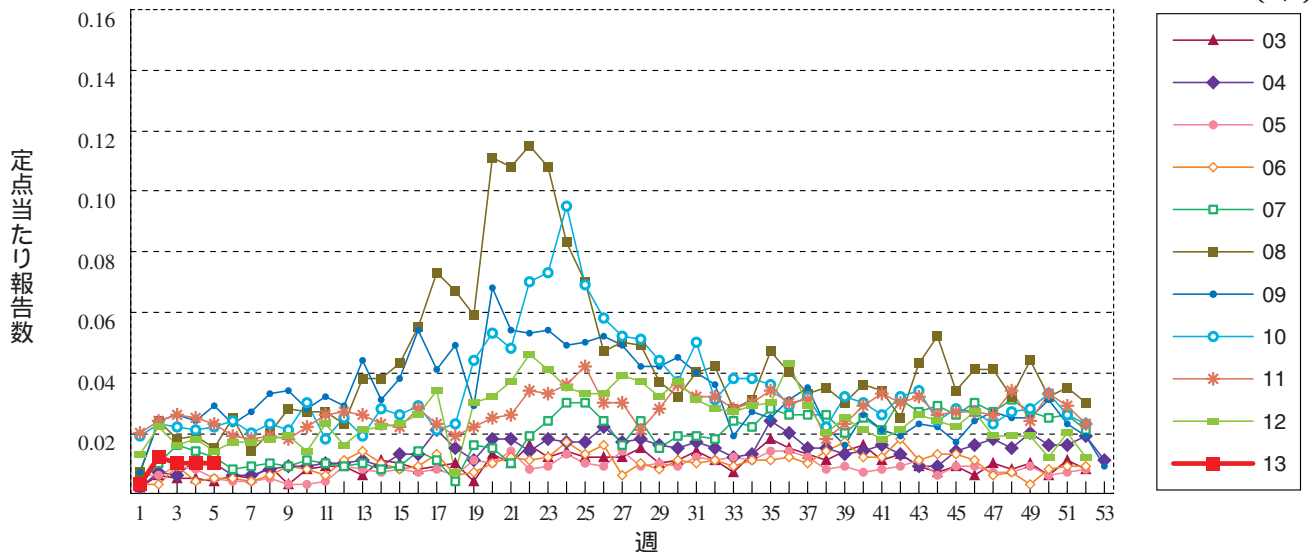
伝染性紅斑



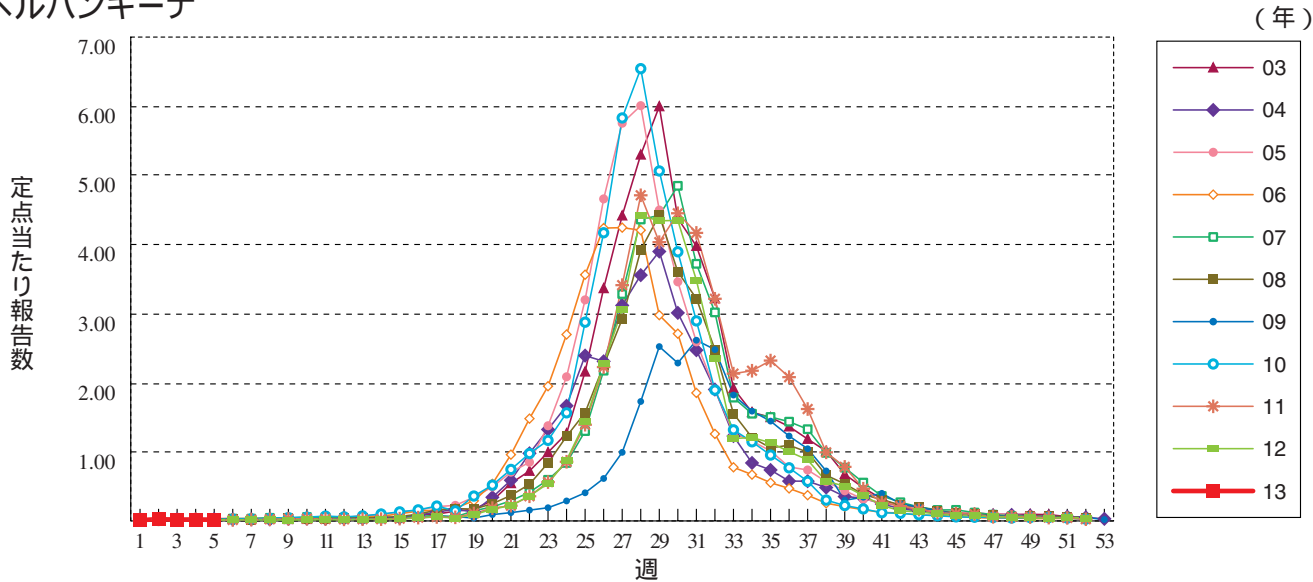
突発性発しん



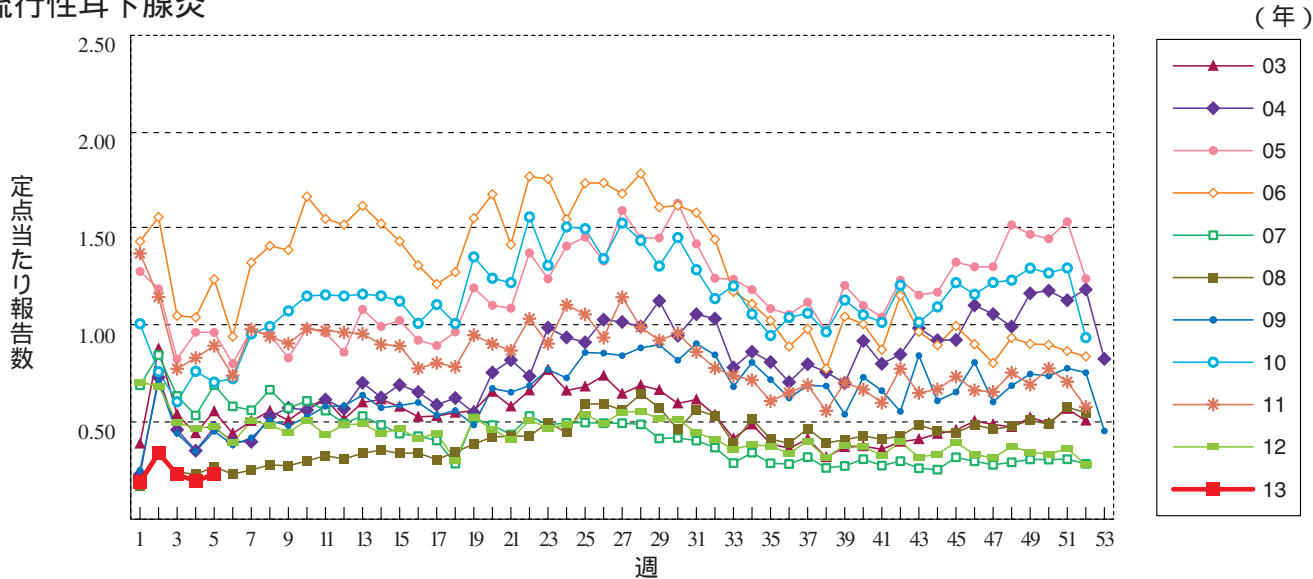
百日咳



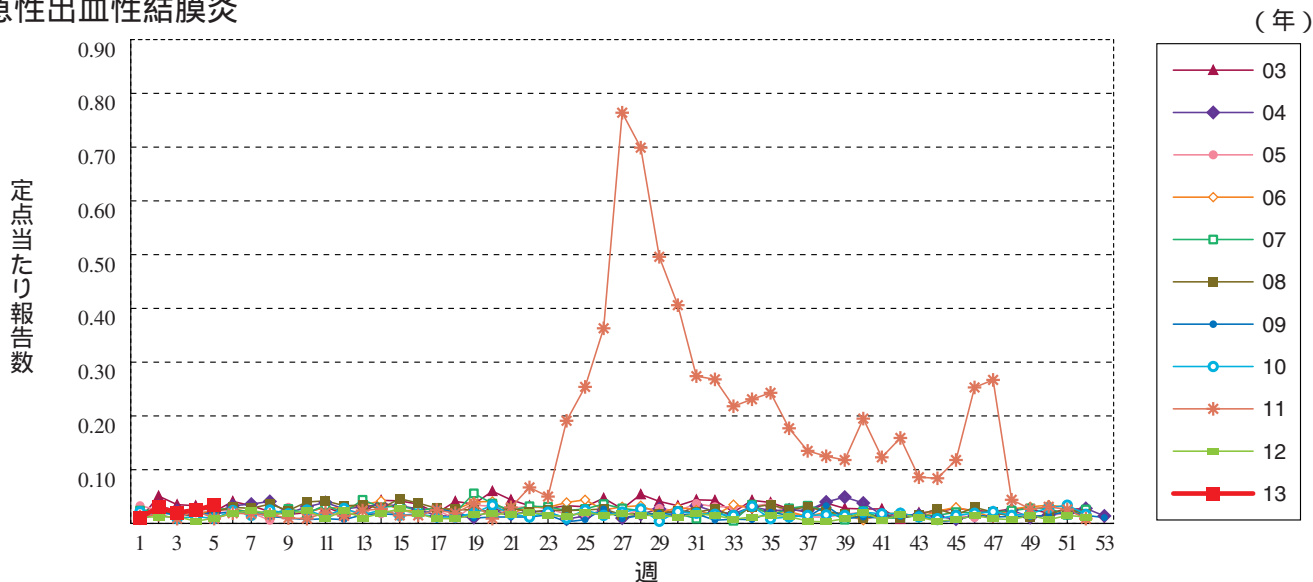
ヘルパンギーナ



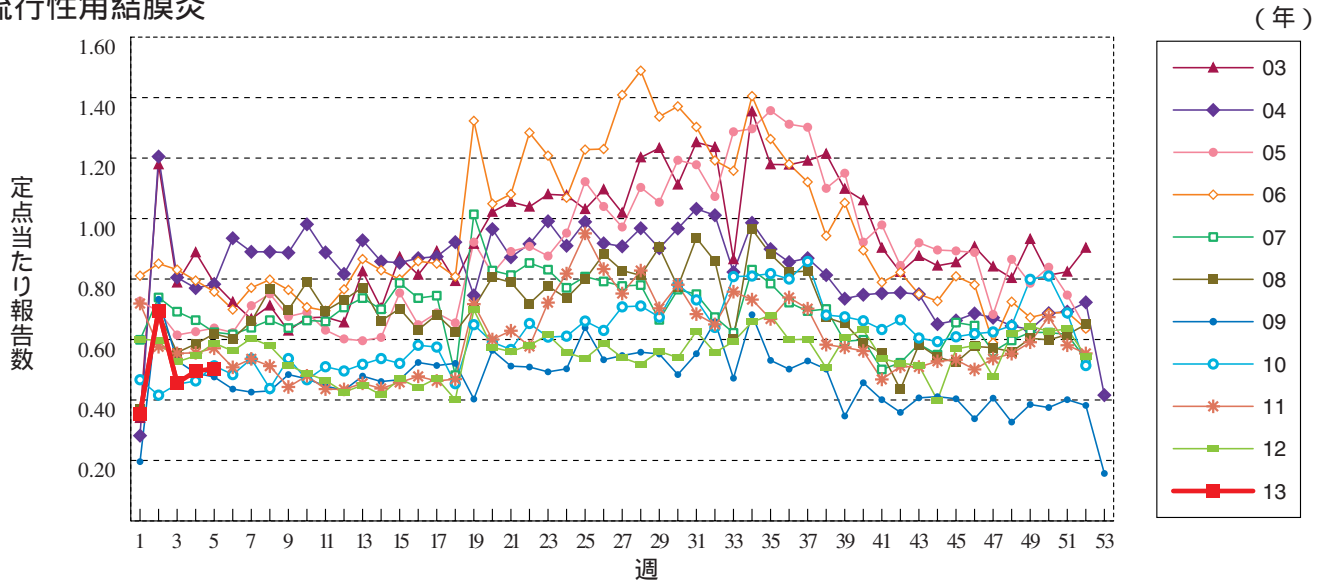
流行性耳下腺炎



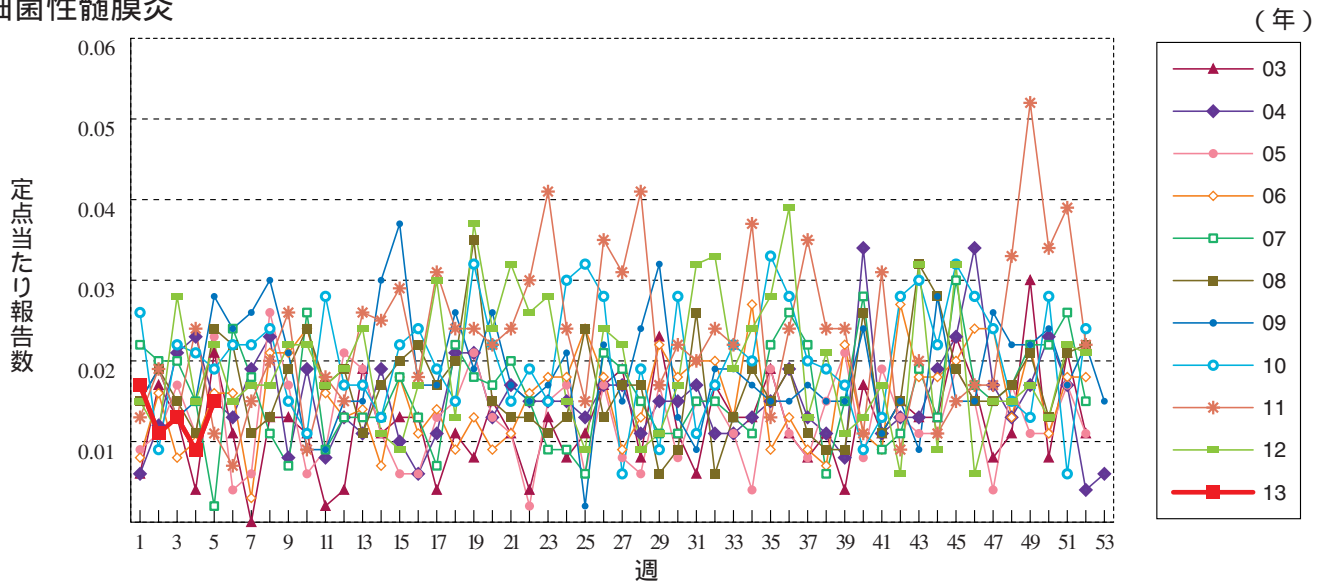
急性出血性結膜炎



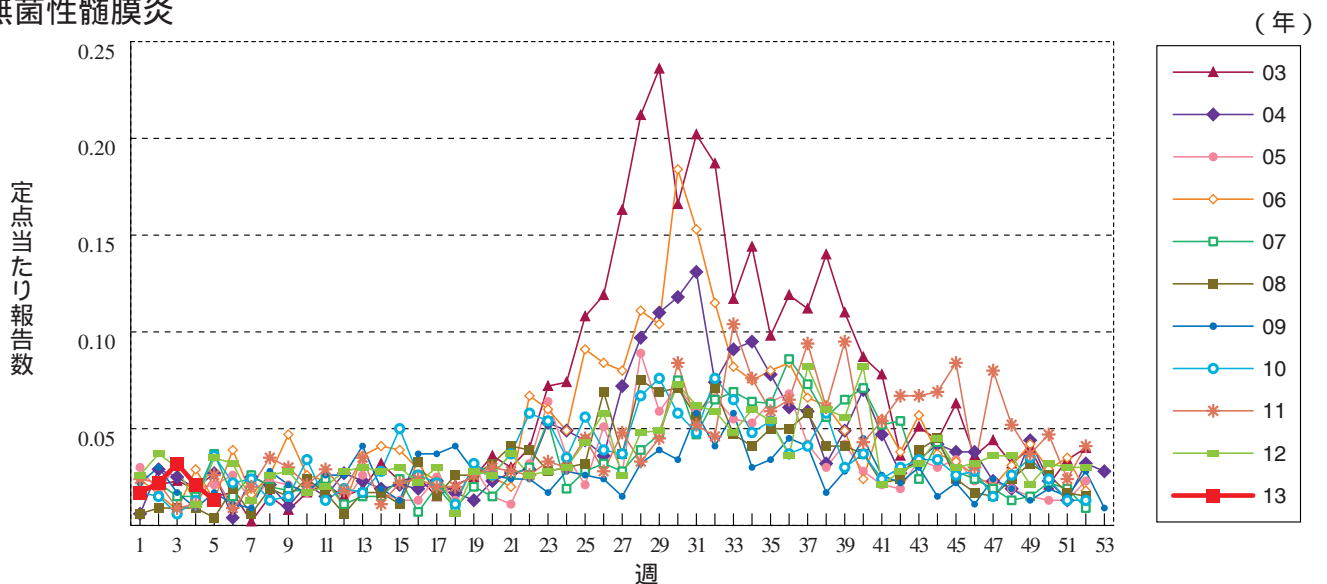
流行性角結膜炎



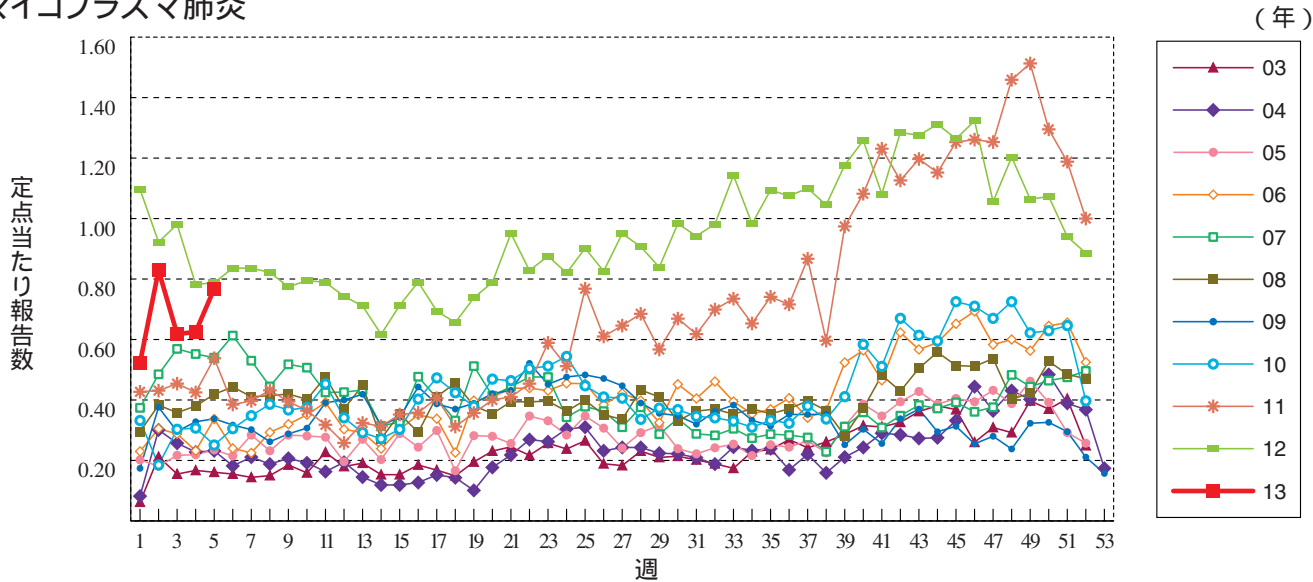
細菌性髄膜炎



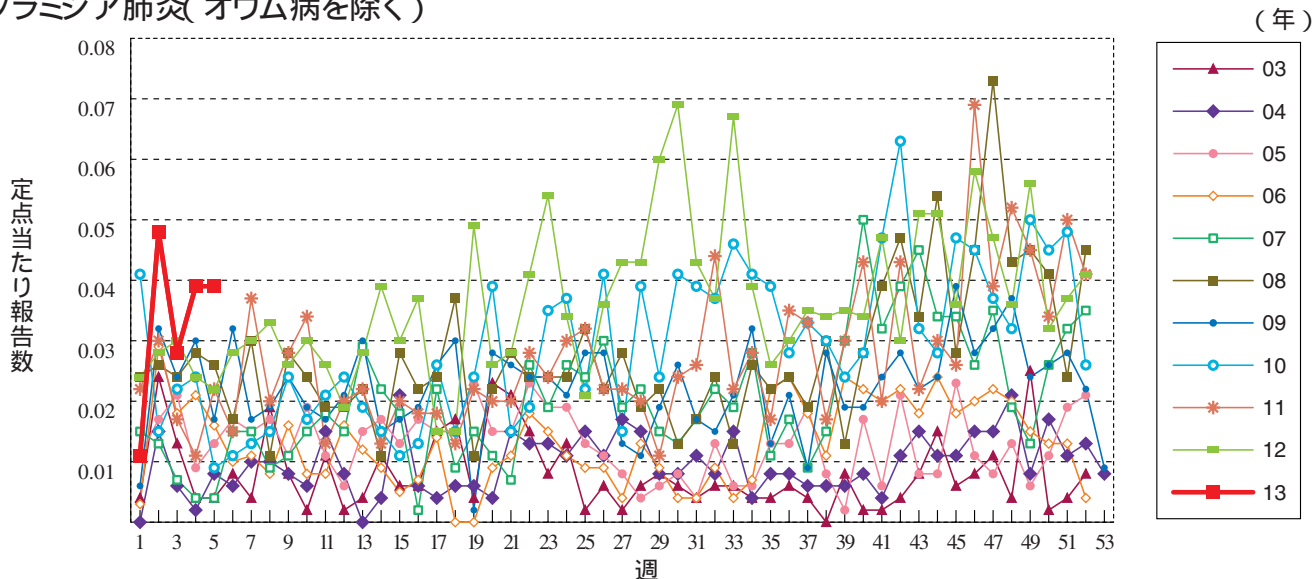
無菌性髄膜炎



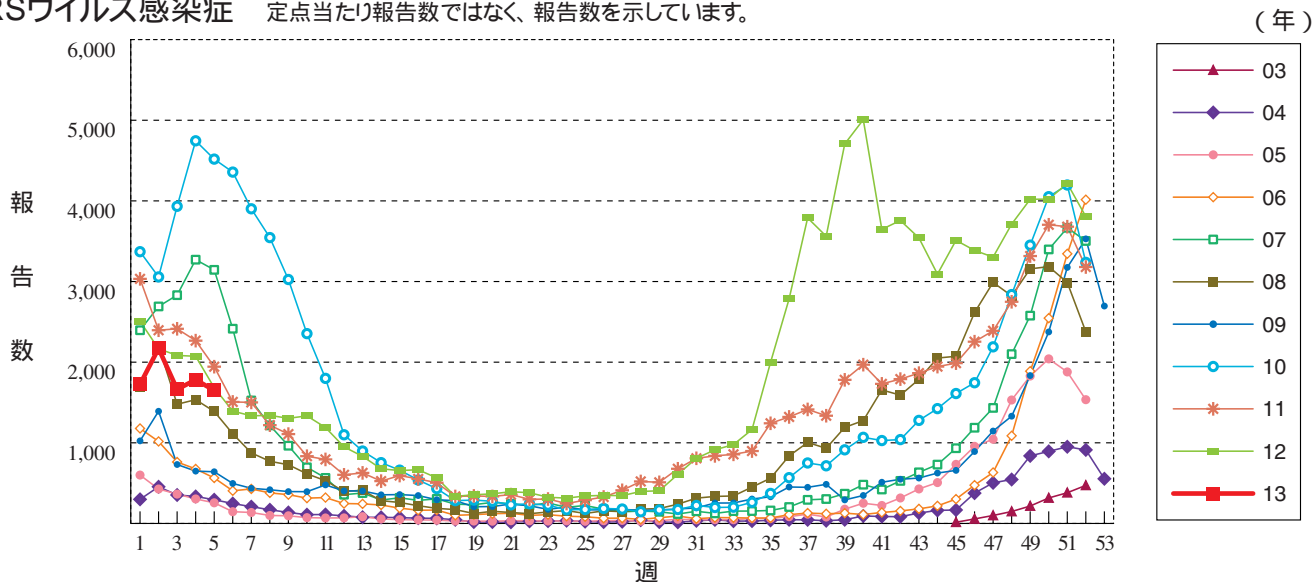
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム病を除く)



RSウイルス感染症 定ポイントあたり報告数ではなく、報告数を示しています。





5週のデータ

注)表中の報告数は2月6日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。
 新型インフルエンザは掲載していません。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2013年5週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		痘 そう		南米出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		結 核	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	322	1824
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	36
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	31
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	15
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	20
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	17
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	21
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	22
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	35
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	26
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	18
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	82
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	86
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66	309
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	115
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	37
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	14
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	12
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	25
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	37
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	48
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	120
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	24
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	26
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	35
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	126
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	84
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	36
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	17
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	14
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	16
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	87
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	26
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	18
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	20
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	22

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年5週

	ジフテリア		重症急性 呼吸器症候群*		鳥インフル エンザ(H5N1)		コレラ		細菌性赤痢		腸管出血性 大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		E型肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	3	10	12	49	1	6	1	5	1	4
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	3	1	3	-	2	1	3
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	6	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年5週

	ウエストナイル熱		A型肝炎		エキノコックス症		黄熱		オウム病		オムスク出血熱		回帰熱		キャサナル森林病		Q熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年5週

	狂犬病		コクシジ オイデス症		サル痘		腎症候性出血熱		西部ウマ脳炎		ダニ媒介脳炎		炭疽		チクングニア熱		つつが虫病	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	26	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	5
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	12
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*鳥インフルエンザ(H5N1)を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年5週

	デング熱		東部ウマ脳炎		鳥インフルエンザ*		ニパウイルス感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		鼻 疽	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	10	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年5週

	ブルセラ症		ベネズエラ ウマ脳炎		ヘンドラウイルス 感染症		発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。

**ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2013年5週

	リフトバレー熱		類鼻疽		レジオネラ症		レプトスピラ症		ロッキー山 紅斑熱		アメーバ赤痢		ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプト スポリジウム症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	13	73	-	1	-	-	11	74	-	14	8	52	-	-
北海道	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5	-	-
千葉県	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-	-	6	-	-	1	4	-	-
東京都	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	1	15	-	6	1	7	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	3	13	-	4	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-
富山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	1	-	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	2	-	-	2	5	-	-
三重県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	1	8	-	1	-	2	-	-
兵庫県	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	1	4	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年5週

	クローンツェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		梅毒		破傷風		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	3	12	1	18	21	105	1	5	-	-	-	1	9	75	1	6	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	3	5	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
東京都	1	2	1	3	6	33	-	1	-	-	-	-	3	23	-	2	-	-
神奈川県	-	1	-	4	2	8	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
石川県	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
愛知県	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	2	8	-	-	-	-	-	1	2	13	1	1	-	-
兵庫県	-	1	-	2	1	3	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
広島県	-	-	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2013年5週

	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		風しん		麻しん	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	10	59	339	7	23
北海道	-	1	-	-	-	-
青森県	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	2	1	1
茨城県	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	1	1	-	-
群馬県	-	-	-	2	-	-
埼玉県	-	1	4	34	-	1
千葉県	-	-	4	22	3	7
東京都	-	1	24	157	-	4
神奈川県	-	-	11	50	3	8
新潟県	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	1	1	-	-
長野県	-	-	1	2	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	4	2	11	-	-
三重県	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	1	-	1
大阪府	-	2	4	18	-	-
兵庫県	-	-	4	16	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	2	7	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	1	-	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	1	2	-	-
鹿児島県	-	-	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	1	-	-

*鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2013年5週

	インフルエンザ*		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん	
	報告数	定点当り	報告数	報告数	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	177271	35.82	1650	824	0.26	5908	1.87	24516	7.77	3100	0.98	612	0.19	198	0.06	1466	0.46	
北海道	8843	38.96	71	35	0.24	459	3.21	385	2.69	101	0.71	12	0.08	3	0.02	48	0.34	
青森県	2162	33.78	14	7	0.17	50	1.22	232	5.66	31	0.76	3	0.07	1	0.02	18	0.44	
岩手県	2213	34.58	8	2	0.05	52	1.30	199	4.98	20	0.50	3	0.08	15	0.38	14	0.35	
宮城県	2603	27.99	21	16	0.28	97	1.67	346	5.97	69	1.19	15	0.26	11	0.19	35	0.60	
秋田県	1546	28.11	8	11	0.31	57	1.63	250	7.14	24	0.69	3	0.09	-	-	11	0.31	
山形県	1569	32.69	4	25	0.83	107	3.57	222	7.40	26	0.87	1	0.03	-	-	14	0.47	
福島県	2693	35.43	22	12	0.27	101	2.24	288	6.40	35	0.78	18	0.40	2	0.04	12	0.27	
茨城県	4100	34.17	26	14	0.19	133	1.77	682	9.09	43	0.57	30	0.40	6	0.08	24	0.32	
栃木県	2082	27.76	11	2	0.04	68	1.45	249	5.30	30	0.64	5	0.11	4	0.09	22	0.47	
群馬県	2595	26.48	10	7	0.12	71	1.18	413	6.88	60	1.00	14	0.23	-	-	23	0.38	
埼玉県	10266	41.56	51	44	0.28	310	1.96	1344	8.51	140	0.89	15	0.09	5	0.03	77	0.49	
千葉県	8973	42.53	36	25	0.19	378	2.89	996	7.60	112	0.85	8	0.06	1	0.01	55	0.42	
東京都	15006	35.90	125	54	0.20	584	2.21	2101	7.96	155	0.59	24	0.09	30	0.11	134	0.51	
神奈川県	12667	37.70	47	30	0.14	361	1.73	1383	6.62	129	0.62	28	0.13	15	0.07	116	0.56	
新潟県	4903	51.61	7	24	0.40	179	2.98	364	6.07	52	0.87	23	0.38	11	0.18	27	0.45	
富山県	1676	34.92	11	14	0.48	146	5.03	281	9.69	15	0.52	5	0.17	7	0.24	12	0.41	
石川県	1543	32.15	-	14	0.48	175	6.03	182	6.28	5	0.17	13	0.45	1	0.03	9	0.31	
福井県	751	23.47	16	6	0.27	65	2.95	239	10.86	29	1.32	1	0.05	-	-	11	0.50	
山梨県	1531	38.28	6	1	0.04	38	1.58	186	7.75	17	0.71	3	0.13	1	0.04	3	0.13	
長野県	3550	40.80	51	3	0.06	101	1.87	383	7.09	44	0.81	2	0.04	8	0.15	21	0.39	
岐阜県	2700	31.03	23	14	0.26	45	0.85	264	4.98	47	0.89	4	0.08	1	0.02	21	0.40	
静岡県	5271	37.92	70	10	0.11	117	1.31	779	8.75	49	0.55	15	0.17	1	0.01	46	0.52	
愛知県	9413	48.27	77	38	0.21	172	0.95	1565	8.65	149	0.82	7	0.04	8	0.04	69	0.38	
三重県	2055	28.54	29	16	0.36	66	1.47	325	7.22	48	1.07	9	0.20	3	0.07	27	0.60	
滋賀県	1514	28.57	19	7	0.22	38	1.19	151	4.72	46	1.44	-	-	4	0.13	17	0.53	
京都府	3644	29.63	21	6	0.08	81	1.08	518	6.91	66	0.88	1	0.01	2	0.03	22	0.29	
大阪府	8354	27.04	180	34	0.17	441	2.21	1404	7.02	189	0.95	27	0.14	12	0.06	73	0.37	
兵庫県	7257	36.47	58	41	0.32	117	0.91	1086	8.42	158	1.22	1	0.01	9	0.07	46	0.36	
奈良県	1489	27.07	10	9	0.26	33	0.94	177	5.06	24	0.69	-	-	2	0.06	7	0.20	
和歌山県	1084	21.68	25	3	0.10	23	0.74	146	4.71	18	0.58	-	-	-	-	12	0.39	
鳥取県	852	29.38	5	4	0.21	103	5.42	104	5.47	21	1.11	3	0.16	1	0.05	12	0.63	
島根県	999	26.29	15	4	0.17	28	1.22	206	8.96	20	0.87	11	0.48	-	-	16	0.70	
岡山県	2670	31.79	25	5	0.09	34	0.63	422	7.81	46	0.85	16	0.30	-	-	23	0.43	
広島県	4546	39.53	58	20	0.28	109	1.51	651	9.04	39	0.54	18	0.25	4	0.06	29	0.40	
山口県	1928	27.94	60	17	0.35	118	2.46	471	9.81	82	1.71	-	-	5	0.10	34	0.71	
徳島県	944	24.84	42	7	0.30	33	1.43	197	8.57	16	0.70	-	-	-	-	11	0.48	
香川県	1772	36.16	22	7	0.23	15	0.50	212	7.07	28	0.93	6	0.20	3	0.10	15	0.50	
愛媛県	2761	45.26	52	3	0.08	81	2.19	370	10.00	56	1.51	6	0.16	2	0.05	29	0.78	
高知県	1536	32.00	82	1	0.03	19	0.63	295	9.83	42	1.40	12	0.40	4	0.13	6	0.20	
福岡県	8026	40.54	68	65	0.54	308	2.57	1050	8.75	256	2.13	122	1.02	2	0.02	85	0.71	
佐賀県	1013	26.66	7	7	0.32	37	1.68	130	5.91	35	1.59	1	0.05	-	-	27	1.23	
長崎県	3033	43.33	26	19	0.43	47	1.07	500	11.36	63	1.43	1	0.02	-	-	13	0.30	
熊本県	2088	26.10	33	45	0.90	70	1.40	826	16.52	99	1.98	57	1.14	3	0.06	48	0.96	
大分県	2232	38.48	15	16	0.44	44	1.22	490	13.61	50	1.39	36	1.00	3	0.08	23	0.64	
宮崎県	2399	40.66	34	46	1.28	76	2.11	586	16.28	117	3.25	1	0.03	1	0.03	38	1.06	
鹿児島県	4025	43.28	35	33	0.60	96	1.75	708	12.87	97	1.76	16	0.29	2	0.04	22	0.40	
沖縄県	2394	41.28	14	1	0.03	25	0.74	158	4.65	102	3.00	16	0.47	5	0.15	9	0.26	

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2013年5週

	百日咳		ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	30	0.01	54	0.02	737	0.23	23	0.03	345	0.50	7	0.02	6	0.01	358	0.77	18	0.04
北海道	-	-	-	-	7	0.05	1	0.03	12	0.41	-	-	-	-	17	0.74	-	-
青森県	1	0.02	-	-	20	0.49	1	0.09	5	0.45	-	-	-	-	14	2.33	-	-
岩手県	-	-	-	-	34	0.85	-	-	3	0.21	-	-	-	-	20	1.05	-	-
宮城県	1	0.02	1	0.02	35	0.60	-	-	3	0.25	-	-	-	-	33	2.75	1	0.08
秋田県	1	0.03	-	-	26	0.74	-	-	3	0.43	-	-	-	-	9	1.13	-	-
山形県	-	-	-	-	15	0.50	1	0.13	3	0.38	1	0.10	-	-	10	1.00	-	-
福島県	-	-	-	-	13	0.29	-	-	6	0.50	-	-	-	-	19	2.71	3	0.43
茨城県	-	-	1	0.01	10	0.13	-	-	8	0.47	-	-	-	-	9	0.69	-	-
栃木県	2	0.04	-	-	9	0.19	-	-	8	0.67	-	-	-	-	10	1.43	2	0.29
群馬県	-	-	-	-	20	0.33	-	-	14	1.00	-	-	-	-	12	1.50	-	-
埼玉県	1	0.01	3	0.02	40	0.25	1	0.02	18	0.43	-	-	-	-	14	1.56	-	-
千葉県	2	0.02	3	0.02	35	0.27	-	-	15	0.44	-	-	-	-	6	0.67	1	0.11
東京都	-	-	3	0.01	38	0.14	1	0.03	23	0.64	-	-	2	0.08	13	0.54	2	0.08
神奈川県	-	-	2	0.01	43	0.21	1	0.02	28	0.62	-	-	-	-	5	0.63	1	0.13
新潟県	-	-	8	0.13	5	0.08	2	0.20	6	0.60	-	-	-	-	9	0.69	2	0.15
富山県	-	-	2	0.07	2	0.07	1	0.14	1	0.14	-	-	-	-	3	0.60	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	10	2.00	-	-
福井県	1	0.05	1	0.05	22	1.00	-	-	2	0.67	-	-	-	-	1	0.17	-	-
山梨県	-	-	-	-	3	0.13	1	0.11	6	0.67	-	-	-	-	3	0.30	-	-
長野県	-	-	-	-	1	0.02	-	-	8	0.73	1	0.09	-	-	11	1.00	-	-
岐阜県	-	-	-	-	20	0.38	-	-	4	0.36	-	-	-	-	3	0.60	-	-
静岡県	7	0.08	-	-	14	0.16	-	-	9	0.41	-	-	-	-	6	0.60	-	-
愛知県	3	0.02	-	-	67	0.37	1	0.03	8	0.24	1	0.07	-	-	11	0.79	-	-
三重県	-	-	-	-	26	0.58	-	-	2	0.17	-	-	-	-	2	0.22	1	0.11
滋賀県	-	-	1	0.03	3	0.09	-	-	3	0.38	-	-	-	-	6	0.86	-	-
京都府	-	-	4	0.05	6	0.08	-	-	9	0.50	-	-	-	-	1	0.17	-	-
大阪府	1	0.01	8	0.04	23	0.12	-	-	15	0.29	-	-	-	-	10	0.59	-	-
兵庫県	1	0.01	-	-	11	0.09	-	-	11	0.31	-	-	-	-	15	1.36	2	0.18
奈良県	-	-	-	-	1	0.03	-	-	1	0.11	1	0.17	-	-	2	0.33	-	-
和歌山県	-	-	-	-	1	0.03	1	0.25	-	-	-	-	-	-	8	0.73	-	-
鳥取県	-	-	-	-	1	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1.00	-	-
島根県	-	-	-	-	3	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.25	-	-
岡山県	-	-	-	-	5	0.09	1	0.08	2	0.17	-	-	-	-	4	0.80	1	0.20
広島県	2	0.03	3	0.04	9	0.13	-	-	12	0.63	1	0.05	-	-	6	0.29	-	-
山口県	-	-	2	0.04	8	0.17	-	-	1	0.11	-	-	-	-	4	0.44	-	-
徳島県	-	-	-	-	1	0.04	-	-	-	-	1	0.20	-	-	1	0.20	-	-
香川県	-	-	1	0.03	1	0.03	-	-	6	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.03	-	-	6	0.16	-	-	11	1.38	-	-	-	-	4	0.67	-	-
高知県	-	-	-	-	4	0.13	-	-	1	0.33	-	-	-	-	4	0.50	1	0.13
福岡県	4	0.03	3	0.03	55	0.46	-	-	7	0.27	-	-	1	0.07	3	0.20	1	0.07
佐賀県	1	0.05	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-	8	1.33	-	-
長崎県	-	-	6	0.14	18	0.41	9	1.13	3	0.38	-	-	-	-	5	0.42	-	-
熊本県	-	-	1	0.02	15	0.30	-	-	12	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	21	0.58	-	-	-	-	-	-	1	0.09	5	0.45	-	-
宮崎県	-	-	1	0.03	14	0.39	-	-	28	4.67	-	-	1	0.14	1	0.14	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	9	0.16	-	-	7	1.00	-	-	1	0.08	9	0.75	-	-
沖縄県	1	0.03	-	-	17	0.50	1	0.10	19	1.90	1	0.14	-	-	5	0.71	-	-

報告数・疾病・都道府県別
 2013年5週

	インフルエンザ (入院患者)
	報告数
総 数	1402
北海道	43
青森県	33
岩手県	63
宮城県	34
秋田県	35
山形県	47
福島県	26
茨城県	63
栃木県	30
群馬県	31
埼玉県	24
千葉県	32
東京都	79
神奈川県	67
新潟県	46
富山県	36
石川県	10
福井県	8
山梨県	16
長野県	45
岐阜県	11
静岡県	25
愛知県	77
三重県	13
滋賀県	16
京都府	17
大阪府	61
兵庫県	40
奈良県	11
和歌山県	25
鳥取県	12
島根県	19
岡山県	7
広島県	73
山口県	13
徳島県	10
香川県	1
愛媛県	8
高知県	21
福岡県	35
佐賀県	17
長崎県	26
熊本県	33
大分県	20
宮崎県	10
鹿児島県	15
沖縄県	18

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

注 報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年5週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群(SARS)						結核		鳥インフルエンザ(H5N1)		細菌性赤痢	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		サル		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2013年5週

	ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	鳥類		犬	
	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-

感染症週報 第15巻 第5号 2013年2月18日発行
 発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

< 国立感染症研究所 感染症情報センター >

<http://www.mhlw.go.jp/>

< 厚生労働省 >

<http://www.forth.go.jp/>

< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。